

 **TRAKTOR** AUDIO 10



TRAKTOR AUDIO 10



オペレーション マニュアル



TRAKTOR AUDIO 10

オペレーション マニュアル

目次

1	ようこそ、TRAKTOR AUDIO 10 へ！	4
1.1	パッケージ内容	4
1.2	マニュアルの注釈について	4
2	各注意事項	6
2.1	聴覚に支障をきたす危険がある場合	6
2.2	注意	7
2.3	注意	8
2.3.1	製品の処分について	8
2.3.2	仕様の変更について	8
2.3.3	免責事項	8
3	インストール	9
3.1	動作環境	9
3.2	ソフトウェアインストール	9
3.2.1	Windows® 7 に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする	9
3.2.2	Windows® XP/Vista® に TRAKTOR AUDIO 10 を インストールする	12
3.2.3	Mac OS® X に TRAKTOR AUDIO 10 をインストー ルする	15
3.3	ハードウェアの接続	18
3.4	登録	20
4	基本設定	21
4.1	TRAKTOR AUDIO 10 を使用しているシステムのデフォルトオーディオ アウトプット機器として使用する	21
4.1.1	Windows® XP	21
4.1.2	Windows® Vista®、Windows® 7	21
4.1.3	Mac OS® X	22
4.2	音楽ソフトウェアとともにオーディオアウトプット機器として TRAKTOR AUDIO 10 を使用する。	22
4.3	DJ ソフトウェアと TRAKTOR AUDIO 10 の併用	22
5	ハードウェアについて	23
5.1	フロント・パネル	23
5.2	リア・パネル	24
5.3	トップパネル	26
6	詳細設定	28
6.1	Windows®での詳細設定 (コントロールパネル、Control Panel)	28
6.1.1	Audio Settings ページ	29
6.1.2	Channel Setup (Windows® でのポート設定)	31
6.1.3	Diagnostics ページ	34

6.2	Mac OS® X での詳細設定(Audio MIDI Setup)	36
6.2.1	Channel Setup (Mac OS® X でのポート設定)	36
6.2.2	オーディオ設定	39
7	TRAKTOR AUDIO 10 を使用する(各設定例の紹介)	41
7.1	アナログ DJ セットアップ	41
7.1.1	アナログ DJ 用にターンテーブルを接続する	41
7.1.2	アナログ DJ 用に CD デッキを接続する	44
7.2	デジタル DJ セットアップ	47
7.2.1	TRAKTOR AUDIO 10 を内部ミックス用に設定する	47
7.2.2	TRAKTOR AUDIO 10 を外部ミックス用に設定する	49
7.2.3	タイムコードヴァイナルを使用した DJ プレイ用にターンテーブル を接続する。	52
7.2.4	タイムコード CD を使用した DJ プレイ用に CD デッキを接 続する。	58
7.3	その他の設定	63
7.3.1	ヘッドフォンの接続	63
7.3.2	録音用にダイナミックマイクを接続する	65
7.3.3	MIDI 機器の接続	67
8	トラブルシューティング(Troubleshooting)	70
8.1	ハードウェアに関する問題の解決法	70
8.2	TRAKTOR AUDIO 10 ドライバが正しくインストールされているか確認す る方法	70
8.3	USBのトラブルシューティング	71
8.3.1	USB 2.0が必要です	71
8.3.2	他のUSBケーブルを試してみる	71
8.3.3	電源供給付きのUSB 2.0対応ハブを使う	72
8.3.4	推奨 USB-ポート (MacBook® のみ)	72
8.3.5	USB 省エネルギーモード(Windows® のみ)を無効にする	72
8.3.6	ドライバをアップデートしてください。	72
8.4	物理的に TRAKTOR AUDIO 10 を再設定する	72
8.5	IRQ (Windows® のみ)のチェック	72
9	各ヘルプ	73
9.1	Readme(リードミー)/ Knowledge Base(資料一覧)/ テクニカルサ ポート	73
9.2	フォーラム	73
9.3	アップデート	73
10	付録	74
10.1	レイテンシー とバッファについて	74
10.2	異なる種類のASIO	74

1 ようこそ、TRAKTOR AUDIO 10 へ!

TRAKTOR AUDIO 10 をご購入いただきありがとうございます。本機材はあらゆるホームスタジオと DJ 環境に最適な究極のハードウェアシステムです。TRAKTOR AUDIO 10 は以下の各機能を装備しています。

- 最新鋭の XMOS オーディオプラットフォームを基礎とした USB 2.0 サウンドカード
- 10xインプット / 10xアウトプット (RCA)
- A、B、C、D 各ポートにはインプットチャンネル用フォノプリアンプを搭載
- A、B、C、D 各ポートにはアナログミキシング用、スタンドアローン (TRAKTOR AUDIO 10 をコンピュータを用いずを使用する場合) 用機能としてダイレクトスルー (Direct Thru) オプションを搭載
- 1/4" フォノソケット仕様のマイクロフォンインプット
- モニタリングソース (In 1|2 and Out 1|2) 切り替え機能付きヘッドフォンアウトプット
- 24-bit / 96 kHz Cirrus Logic® オーディオインターフェイス
- ASIO™、Core Audio™、Directsound®、WASAPI™ ドライバサポート
- MIDI In と Out

1.1 パッケージ内容

同封内容

- 1 x TRAKTOR AUDIO 10 オーディオインターフェイス
- シールド付 1 x USB 2.0 ケーブル
- アダプタープラグ付 1 x DC 電源
- 1 x ドライブインストールディスク
- 本マニュアル
- TRAKTOR LE 2 DJ ソフトウェア
- COMPLETE 7 PLAYERS ソフトウェアバンドル

1.2 マニュアルの注釈について

本マニュアルでは、特定表記専用フォントを使用して特記事項や、危険事項について解説しています。以下の各アイコンで、特記事項内容を区別しています。



このアイコンの後に表記してある内容には、必ず従ってください。



この電球アイコンでは有効なヒントとなる内容を記載してあります。ここではしばしば機能をより効率よく使用するための解決策が記載されていますが、必ずこれを実行しなければならないという内容ではありません。作業効率を図るためには一度確認しておくことをお勧めします。

更に、以下の書式を使用する場合があります。

- 各メニューで表示される内容(Open…、Save as… 等) 及び、ハードドライブ、またはその他の記録媒体のパスはイタリックで表示されます。
- スクリーン各部で表示されるテキスト(ボタン、コントロール部、チェックボックス脇のテキスト等) は**ライトブルー**で表示されます。 この書体が使用されている場合、同じテキストをスクリーン上で確認できるはずです。
- 重要な名称とコンセプトは**ボールド**体で表示しています。
- コンピュータのキーボード上で操作する場合はそれらのキーワードを括弧で示します (例、"[Shift] + [Return]")。
- ▶ インストラクションの始めには、それぞれ再生ボタンのような矢印マークが添えてあります。

→ 操作の結果を示す場合、小さな矢印が添えられます。

ハードウェアの呼称

本資料では、 TRAKTOR AUDIO 10 ハードウェアを “TRAKTOR AUDIO 10” または 短縮して “TA10” と記載します。

2 各注意事項

TRAKTOR AUDIO 10 システムを使用する前に、以下の項目を必ずお読みください。ここでは TRAKTOR AUDIO 10 を設定、使用する際の安全上の注意事項を記載しています。

 本マニュアルは今後の参考の為に安全な場所に保管しておいてください。



警告

感電する恐れがあります。
開けないでください。



感電を避ける為、製品のパワーサプライを開けたり、または改造することはしないでください。パワーサプライにはユーザーが手を加えることができる部品は含まれていません。



正三角形内に感嘆符がある表示部分では操作上、及び手入れの際に注意する点が記載されています。



正三角形内に稲妻を記してある場合は、危険なレベルの電流によって怪我をする恐れがあることを警告しています。

2.1 聴覚に支障をきたす危険がある場合

TRAKTOR AUDIO 10 をアンプ、ヘッドフォン、スピーカー、等と共に使用することで、聴覚に障害をもたらす音量を生成することがあります。過度な音量再生を防ぐ為に、TRAKTOR AUDIO 10 を使用する際には全ボリュームをまず最小値に絞ってから使用をはじめることを強く推奨します。その後音量を徐々に上げて適切な値に設定してください。聴力低下や耳鳴りの症状が現れた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

2.2 注意

TRAKTOR AUDIO 10 及び、接続してある他の機器の故障を防ぐ為に以下の項目を熟読、把握してください。

- 製品のパワーサプライが機能しない場合は使用しないでください。この場合直ちに使用をやめ、専門の業者に修理を依頼してください。
- 本製品用ではないパワーサプライを TRAKTOR AUDIO 10 に接続、使用するのは避けてください。
- TRAKTOR AUDIO 10 を開けたり、分解、改造するのはおやめください。TRAKTOR AUDIO 10 にはユーザーが修理可能な部品は含まれていません。機器が故障している場合は、使用を直ちにやめ、専門の業者にご相談ください。
- 機器を雨天で使用せず、及び水のある場所、湿気の多い場所での使用はしないでください。
- 機材の破損につながる物や液体をハードウェアに置いたりかけたりしないでください。TRAKTOR AUDIO 10 をクリーニングするには、柔らかい、乾いた布などをご使用ください。シンナーや、ベンジン、洗剤等の薬液、又は薬液のしみこんだ清掃用布は使用しないでください。
- 異常高温状況下での使用、保管(例、車内での直射日光に機器をさらす、または暖房器具に近接した状況下)、または振動の多い場所での使用、保管を避けてください。
- TRAKTOR AUDIO 10 を冷環境に放置した後は、室温で一定時間放置してください。
- TRAKTOR AUDIO 10 を落下の可能性がある場所に置かないでください。
- 機器(例、ミキサーアンプ、アクティブスピーカー等)を TRAKTOR AUDIO 10 に接続する場合は電源を切った状態で行ってください。
- TRAKTOR AUDIO 10 を移動する際には、接続してあるケーブル類を全て外してから行ってください。
- 落雷の際、または長期間 TRAKTOR AUDIO 10 を使用しないで放置する場合は、TRAKTOR AUDIO 10 のパワーサプライを電源プラグから外してください。
- ボタン、ノブ、スイッチ、コネクター部に過度の力をかけて使用しないようにしてください。この場合直ちに TRAKTOR AUDIO 10 の使用をやめ、専門の業者に修理を依頼してください。

2.3 注意

2.3.1 製品の処分について

製品が修理不可能な状態になった場合、または製品を主文する場合は、お住まいの国が取り決めた法律に従って、電化製品の正規廃棄手順を取り廃棄してください。

2.3.2 仕様の変更について

これらの情報はこのマニュアルが印刷またはデジタル資料として出版されるまでの最新版です。しかしながら Native Instruments はこの製品に関するアップデートの権限を有し、製品の内容と本資料内容は予告なしに変更される場合があります。

2.3.3 免責事項

Native Instruments GmbH は TRAKTOR AUDIO 10 の改造、または間違った使用方法によるデータ及び機器の各故障、紛失、破損に対し一切の責任を負いません。

3 インストール

使用しているコンピュータで TRAKTOR AUDIO 10 を安定した状態で使用する為に、インストール時には以下の 2 つのプログラムが自動的にインストールされます。

- まず、TRAKTOR AUDIO 10 ドライバがインストールされます。このプログラムによってオーディオインターフェイスとコンピュータが連動します。
- 次にコントロールパネルソフトウェアがインストールされます。
 - ・ Windows® では、コントロールパネルソフトウェアでパフォーマンス設定、プリアンプ設定、パフォーマンス診断、サウンドカードのポート設定を行います。
 - ・ Mac OS® X ではパフォーマンス設定とプリアンプ設定はシステムの [ユーティリティ\(Utilities\)](#) フォルダ内の Audio MIDI セットアップ内で行います。ポートの設定はコントロールパネル(Control Panel)ソフトウェア内で行います。



使用しているコンピュータで USB を用いたオーディオ機器の設定とインストール作業なれている方はこの章は読み飛ばして、レジストレーションの章10に進んでください。

3.1 動作環境

最新の動作環境に関してはこちら<http://www.native-instruments.com/TA10> の製品ページで確認してください。

3.2 ソフトウェアインストール

3.2.1 Windows® 7 に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする

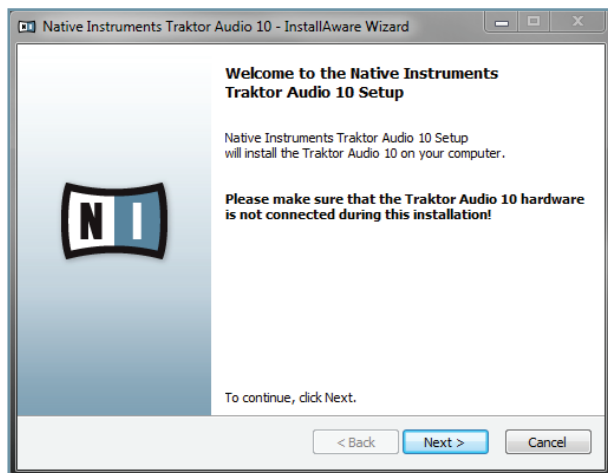


ソフトウェアインストールが終了するまで、TA 10 をコンピュータに接続しないでください。

Windows® 7 に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする方法は以下です。

1. インストールディスクをコンピュータの CD/DVD-ROMドライブへ挿入してください。
2. Windows® Explorer でディスクの中身を確認してください。
3. インストールファイル “TRAKTOR AUDIO 10 Setup PC.exe “ をダブルクリックします。

4. インストールスクリーンで Next をクリックしてください。



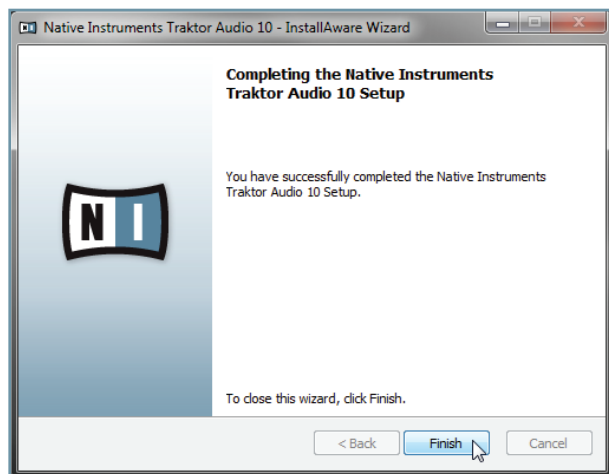
5. インストールを続けるには、まずはライセンス規約にご同意いただかなければなりません。使用許諾を読み、同意するためのチェックボックスをチェックしてください。その後“Next”をクリックします。



6. インストールを進めるよう促すメッセージが表示されます。Next をクリックして進みます。



7. インストールが完了したら、Finish をクリックしてください。



8. 3.3 章で解説する手順でハードウェアを接続します。

3.2.2 Windows® XP/Vista® に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする

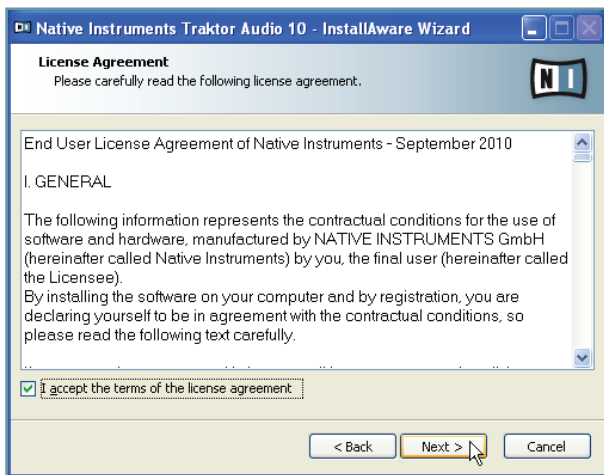
 ソフトウェアインストールが終了するまで、TA 10 をコンピュータに接続しないでください。

Windows® XP/Vista® に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする方法は以下です。

1. インストールディスクをコンピュータの CD/DVD-ROMドライブへ挿入してください。
2. Windows® Explorer でディスクの中身を確認してください。
3. インストールファイル “TRAKTOR AUDIO 10 Setup PC.exe “ をダブルクリックします。
4. インストールスクリーンで Next をクリックしてください。



5. インストールを続けるには、まずはライセンス規約に同意してください。使用許諾を読み、同意するためのチェックボックスをチェックしてください。その後“Next”をクリックします。



6. インストールを進めるよう促すメッセージが表示されます。Next をクリックして進みます。



7. ドライバインストール中に Windows® セキュリティ警告画面が表示されます。このウインドウは無視して結構です。インストールを続けるには続ける (Continue Anyway、Windows® XP) またはインストール (Install、Windows® Vista®) をクリックします。
8. インストールが完了したら、Finish をクリックしてください。



9. 3.3 章で解説する手順でハードウェアを接続します。

3.2.3 Mac OS® X に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする

Mac OS® X に TRAKTOR AUDIO 10 をインストールする方法は以下です。

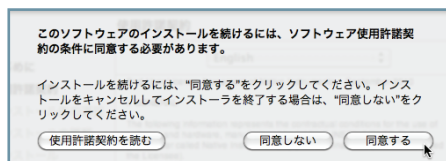
1. インストールディスクをコンピュータの CD/DVD-ROM ドライブへ挿入してください。
Mac OS® X ファインダにアイコンが表示されます。
2. TRAKTOR AUDIO 10 ディスクアイコンをダブルクリックしてディスクの内容を確認します。
3. “TRAKTOR AUDIO 10 Installer Mac.mpkg” ファイルをダブルクリックします。インストールが開始し、スクリーンが表示されます。
4. Continue (続行) をクリックして進みます。



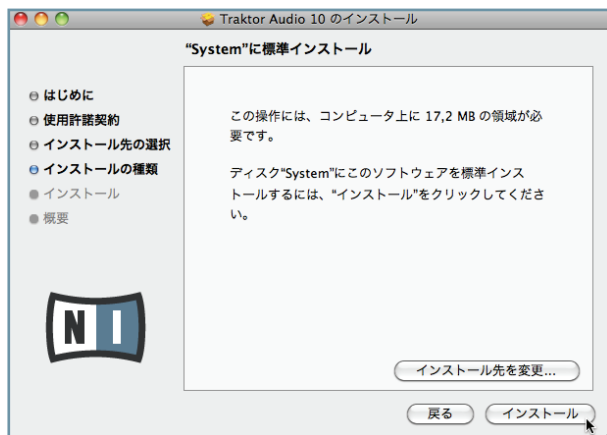
5. ソフトウェアライセンスを確認し、Continue をクリックして次に進みます。



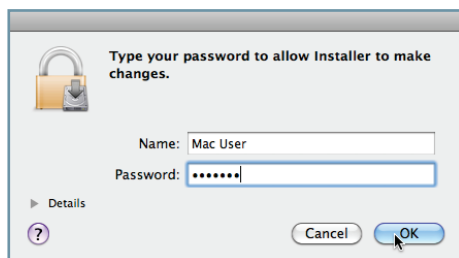
6. ソフトウェアライセンスに同意するには、Agree (同意)をクリックします。



7. Install (インストール)をクリックしてインストールを開始します。



8. Mac OS® X がインストール認証画面を表示します。認証用の名前とパスワードを入力してください。



9. インストールが正常に完了すると、Mac を再起動するよう促されます。Restart (再起動) ボタンをクリックしてインストールを終了します。

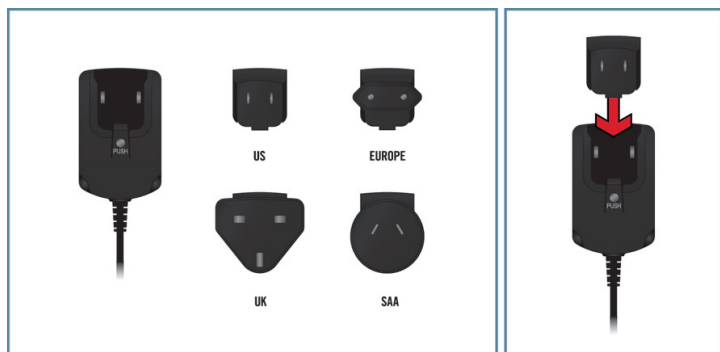


10. 3.3 章で解説する手順でハードウェアを接続します。

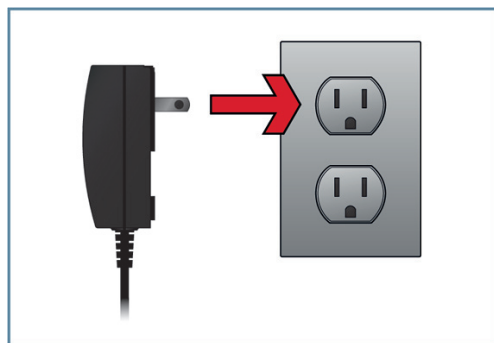
3.3 ハードウェアの接続

ハードウェアを接続する 3.2章で解説した全てのソフトウェアがインストールしてあるか確認してください。ソフトウェアがインストールしてあるか確認する方法は以下です。

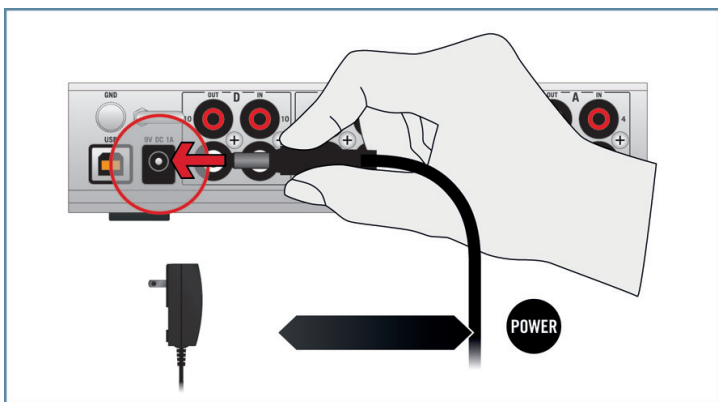
1. 適切なアダプタープラグをパワーサプライに取り付け、カチッとはめ込まれる音がするまでアダプタープラグをはめ込みます。



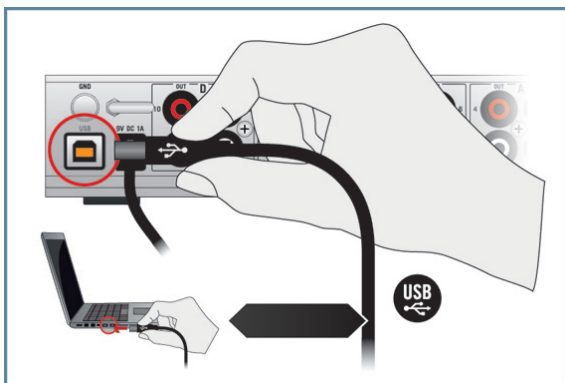
2. パワーサプライを電源接続部に接続します。



3. パワーサプライケーブルの末端部を TA10 の背面にあるパワーサプライコネクタに接続します。



4. TA10 を使用しているコンピュータの USB 2.0 ポートに同封している USB ケーブルを使用して接続します。



→ コンピュータにサウンドカードを接続すると、USB ドライバがコンピュータに自動インストールされ、TRAKTOR AUDIO 10 サウンドカードを使用できる状態となります。レジストレーション313.4 へと進んでください。Windows® XP の場合は以下のセクションを参照してください。

XP ユーザーのみ: 機器ドライバインストールの完了作業

新規ハードウェアの検知により、Windows® 機器ドライバインストール作業を完了します。

1. Windows® XP が TRAKTOR AUDIO 10 サウンドカードを認識します。Windows® がインターネットでドライバを検索するよう促す場合は、No を選択します。
 2. 機器ドライバのインストール中、Windows® が TRAKTOR AUDIO 10 ドライバが Windows® ログテストの基準に達していないといった内容のメッセージを表示する場合があります。これは正常な動作で、問題が生じているわけではありません。Continue Anyway (続行)をクリックして作業を先に進めてください。
- 使用しているコンピュータが
“NewHardwarefound(新規ハードウェアが見つかりました)”と言った内容のメッセージを表示します。続けて“Yourdevicesarereadytouse(機器を使用できる状態となりました)”といった内容のメッセージが現れ、機器ドライバのインストールが完了したことを知らせます。
- ▶ ドライバのインストール作業を終えると、ドライバインストールが再起動します。この反応は正常ですのでドライバコンポーネントを全てインストールするために上記の作業を繰り返してください。
- ここまでで全ソフトウェアのインストールが終了し、TRAKTOR AUDIO 10 を使用できる準備が整いました。レジストレーション313.4 へと進んでください。

3.4 登録

TRAKTOR AUDIO 10 のレジストレーション(製品登録) は強制的なものではありません。しかしながら、サポートを受ける場合や、万が一盗難の被害にあった場合に有効ですので、レジストレーション(ユーザー登録)を行うことを推奨しております。登録ユーザーとして優先的に有益な情報を得ることも可能となります。



Native Instruments ウェブサイトで TRAKTOR AUDIO 10 を登録するには製品起動用ステッカーに記載されたシリアルナンバーが必要です。この番号は TRAKTOR AUDIO 10 のパネルで確認可能です。

TRAKTOR AUDIO 10 を登録するには、<http://www.native-instruments.com/registration> での指示に従ってください32

では4 章へと進んでください。

4 基本設定

TRAKTOR AUDIO 10 をコンピュータのデフォルトオーディオアウトプット機器として設定するには、システムのオーディオ設定項目で本機器を選択する必要があります。4.1でその指定方法を確認してください。

TRAKTOR AUDIO 10 を使用している音楽ソフトウェアのデフォルトオーディオアウトプット機器として使用は、4.2の解説を参照してください。

TRAKTOR DJ または他の DJ ソフトウェアと共に TA10 を使用するには 4.3章を参照してください。

4.1 TRAKTOR AUDIO 10 を使用しているシステムのデフォルトオーディオアウトプット機器として使用する

以下のセクションでは、TRAKTOR AUDIO 10 を使用しているコンピュータのデフォルトオーディオアウトプット機器として指定する方法を解説します。

4.1.1 Windows® XP

1. Start > Control Panel > Hardware and Sound > Sound と進みます。
2. Sounds and Audio Devices Properties ウィンドウで Audio タブを選択します。
3. オプションの Default Device ドロップダウンリストから TRAKTOR AUDIO 10 を選択します。
4. OK をクリックして選択内容を適用し、ウィンドウを閉じます。

→ これで TRAKTOR AUDIO 10 をデフォルトオーディオ機器として指定したことになります。

4.1.2 Windows® Vista®, Windows® 7

1. Start > Control Panel > Hardware and Sound > Sound と進みます。
2. Sound コントロールパネルで Playback タブを選択します。
3. デフォルトとして使用する TRAKTOR AUDIO 10 のアウトプットペア (Ch A、Out 1|2 または Ch B、Out 3|4) をクリック、選択してください。
4. Set Default をクリックします。
5. OK をクリックして選択内容を適用し、ウィンドウを閉じます。

→ これで TRAKTOR AUDIO 10 をデフォルトオーディオ機器として指定したことになります。

4.1.3 Mac OS® X

1. スクリーンの左上隅の灰色の Apple Icon メニュー下にある System Preferences (システム環境設定)を開きます。
2. Hardware(ハードウェア、上から2番目)で Sound (サウンド)を選択します。
3. Sound (サウンド)コントロールパネルで Output (出力)タブを選択します。
4. サウンドカードのリストから TRAKTOR AUDIO 10 を選択します。
5. パネルを閉じます。

→ これで TRAKTOR AUDIO 10 をデフォルトオーディオ機器として指定したことになります。

4.2 音楽ソフトウェアとともにオーディオアウトプット機器として TRAKTOR AUDIO 10 を使用する。

音楽制作ソフト、DJ ソフトウェアとともに TRAKTOR AUDIO 10 を使用する前に、本機をソフトウェアのオーディオアウトプット機器として設定する必要があります。ほとんどの音楽制作、DJ ソフトウェアではそれらのプログラムの環境設定ダイアログにあるオーディオと MIDI 設定セクションで直接サウンドカードプロパティにアクセスすることが可能です。オーディオと MIDI インターフェイスの設定に関しては各ソフトウェアの資料を参照してください。

4.3 DJ ソフトウェアと TRAKTOR AUDIO 10 の併用

TRAKTOR DJ ソフトウェアを専用ハードウェアオーディオインターフェイスで使用する為の設定に関しては TRAKTOR ソフトウェアの資料を参照してください。

TRAKTOR AUDIO 10 をデジタル DJ 環境(タイムコードを使用するメディア)で使用するためには、関係するポートのインプットチャンネルをタイムコード受信用に設定することが不可欠となりますので、THRU モードを**無効**にし、タイムコードを送信するヴァイナル、CD によって PHONO または LINE を選択します。ポートの設定方法に関しては 6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。DJソフトウェアを使用するために TA10 を設定する方法に関しては 7.2 を参照してください。

5 ハードウェアについて

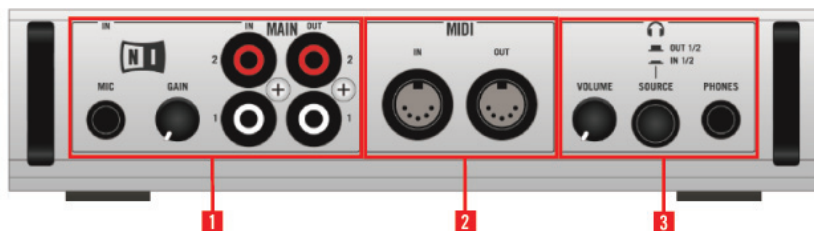
TRAKTOR AUDIO 10 はコンピュータ、外部機器のオーディオ入出力をアナログ、デジタルの両方で処理するサウンドカードです。

DJ 使用時には TA10 をターンテーブルの使用、CD デッキ、その他のライン入力機器、MIDI 機材の使用に用います。ターンテーブルと CD デッキでアナログ再生はもちろん、DJ ソフトウェア内でオーディオファイルをコントロールする為のタイムコードヴァイナル/CD を使用します。柔軟なポート設定オプションでアナログ、デジタル DJ システムを併用する為に設定することも可能です。TA10 ソフトウェアのインストール時に同時インストールされるコントロールパネルソフトウェアでポートを設定する方法に関しては 6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。

以下は TRAKTOR AUDIO 10 の主要機能です。

- サウンド変換(デジタル-アナログ、アナログ-デジタル)
- 再生/モニター (入力機器、またはコンピュータからヘッドフォン/スピーカーへ)
- タイムコードヴァイナル/CD の使用

5.1 フロント・パネル

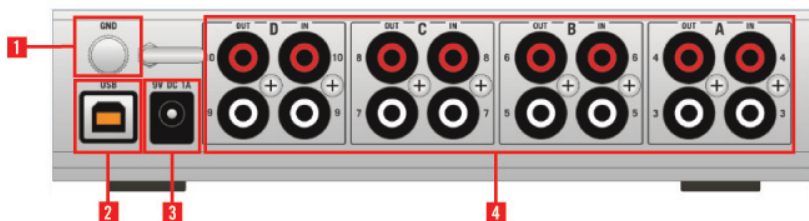


5.1 TRAKTOR AUDIO 10 のフロントパネルです。

- (1) MIC と MAIN IN/OUT:
 - フロントパネルの左側に 1/4" MIC インプットソケットがあり、典型的な 1/4" ジャック仕様のダイナミックマイクを使用することができます。MIC IN インプットを使用することで MAIN IN インプットが無効となり、MAIN IN インプットを使用することで MIC IN が無効となります。
 - **GAIN** ノブ で MIC IN のゲインレベルをコントロールします。
 - GAIN ノブの隣にある **MAIN IN/OUT** インプット とアウトプットチャンネルはアンバランスドコネクターです。これらは TRAKTOR AUDIO 10 のメインインプット/アウトプットですが、TRAKTOR SCRATCH (または他の DJ ソフトウェア) の使用においてはこのアウトプットポートをサンプルデッキ/ループレコーダー (Sample Deck / Loop Recorder) シグナル用追加アウトプットとして使用し、メインチャンネルシグナルをリアパネルのチャンネルアウトプットから出力するのが理想的でしょう。MIC IN インプットと MAIN IN インプットを両方同時に使用することはできません。

- **(2) MIDI:** パネル中央部にある **MIDI** セクションには **MIDI IN** と **MIDI OUT** ソケットがあり、ここは **MIDI** 機器 (シンセ、コントローラー等)のインターフェイスとして機能しコンピュータのソフトウェア、または外部 **MIDI** 機器をコントロールする為に信号をやり取りします。
- **(3) ヘッドフォン:**
 - ・ ヘッドフォンセクションには 1/4" ステレオソケットがあり 1/4" ステレオジャックを用いてヘッドフォンを接続します。
 - ・ このセクションの **VOLUME** ノブでヘッドフォンへのアウトプットシグナルレベルを調節します。
 - ・ **SOURCE** ボタン で入力シグナルである **MAIN IN** (ダイレクトモニタリング) と出力シグナル **MAIN OUT** の切り替えを行います。

5.2 リア・パネル



5.2 TRAKTOR AUDIO 10 のリアパネルです。

- **(1) Grounding Post (GND):** 左上にあるグラウンディングポスト(**grounding post**) に全ターンテーブルのグラウンド線を配線します。この配線を行うことでターンテーブルの低音ノイズやヒス音声等のノイズを排除します。
- **(2) USB Port:** **USB** ポートコネクターで **TRAKTOR AUDIO 10** サウンドカードをコンピュータ、またはワークステーションに **USB 2.0** を介して接続し、コンピュータとデータをやり取りします。 **TRAKTOR AUDIO 10** は **USB** パワーのみでは機能しないので、常に **DC** 電源を接続しておく必要があります。
- **(3) DC Adapter Socket:** 9 ボルト **DC** 電源をこのソケットに接続します。 **TRAKTOR AUDIO 10** は **USB** ケーブルからの電源よりもこの電源からの電力を主に使用するので、この電源は常に接続しておくことが必要となります。

- **(4) ポート A、B、C、D:** TA10 のポートはインプットチャンネルとアウトプットチャンネルから成り立っています。ポート A から D を使用して最大4 台のインプット機器を接続でき(line/phono)、音声を最大 4 種のアウトプット機器またはミキサーチャンネルに出力可能です。各ソケットはアンバランスドコネクターで、ターンテーブル、シンセ、テープデッキ、CD プレイヤー、またはファントム電源を必要としない機器、または楽器を接続します。

各インプットポート(A、B、C、D) ではタイムコードを扱う機器からのタイムコード情報も処理します。通常の DJ としての使用では、ターンテーブルをポートの IN チャンネルに接続し、タイムコードヴァイナルからのデータはオーディオフィールをコントロールする為にコンピュータソフトウェアに送信されます。よってオーディオシグナルは、同じポートのアウトプットチャンネルに送信され、更にミキサーチャンネル、または他のアウトプット機器へと伝達されます。

ポート A から D には更に Direct Thru (THRU) 機能も搭載しており、ポートのインプットチャンネルから直接シグナルを(内部音声処理することなく)ポートのアウトプットチャンネルに送信するので、アナログ DJ に有効です。



注意点: TRAKTOR AUDIO 10 でタイムコードヴァイナル/CD を使用するには、ポートを正確に設定する必要があります。ポート設定方法詳細は 6.1.2 / 6.2.1 で確認してください。

5.3 トップパネル



5.3 TRAKTOR AUDIO 10 のトップパネルです。

STATUS LED で薄暗い環境下でも素早く音声の入出力状況を確認することができます。各 LED のリストと機能は以下となっています。

- ・ **ポート A、B、C、D:**
 - ・ **IN** と **OUT** ライトは入出力音声を確認すると緑に点灯します。 音声クリッピング(音量が大きすぎる)すると **IN** が赤く点灯します。
 - ・ ポートがインプットチャンネルシグナルを直接アウトプットチャンネルに送信している場合は、**THRU** インジケーター がオレンジに点灯します。
タイムコードメディア(ヴァイナル/CD)を使用している場合、チャンネルで受信するシグナルはデジタルで、コンピュータで処理する必要があります。 この場合、**THRU** 機能は無効にする必要があります。 ポートの設定に関しては 6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。
 - ・ ターンテーブルをポートで使用する場合 **PHONO** を有効にする必要があります (デジタルヴァイナル、アナログヴァイナルのどちらを使用する場合でも)。 ポートの設定に関しては 6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。



デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために **PHONO** となっており(THRU も有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために **LINE** となっています(THRU も有効な状態となっています)。 このデフォルト設定の変更方法に関しては6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。

- **MAIN IN と OUT:** フロントパネルの MAIN ポートでオーディオの入出力があるとこの **IN** と **OUT** が緑に点灯します。 音声クリッピング(音量が大きすぎる)すると IN LED が赤く点灯します。
- **MIDI:** MIDI 接続を確認すると、この **IN** と **OUT** が緑に点灯します。 LED は MIDI データの送受信に反応して点滅します。
- **DC:** 9 ボルト DC 電源が接続されるとここがオレンジに点灯します。 この電源は常に接続しておく必要があります。
- **USB:** USB ポートがコンピュータに接続してあると緑に点灯します。 ここが緑点滅する場合は USB 接続に問題があることを意味します。
- **PHONES:** サウンドカードのフロントパネルにある MAIN IN チャンネルのシグナルをモニタリングしているときはこの **IN** がオレンジに点灯します。 MAIN OUT チャンネルの出力シグナルをモニタリングしている場合はこの **OUT** がオレンジに点灯します。 このモニタリングモードを切り替えるにはヘッドフォンソケットの横にある **SOURCE** ボタンを押します。

6 詳細設定

Windows®

Windows® において全ての詳細設定はインストール時に同時に自動インストールされたコントロールパネル(Control Panel)ソフトウェアで行うことができます(2章参照)。ドライバのインストール後、ハードウェアをコンピュータに接続した後、インターフェイスをデフ32ルトアウトプット機器として指定した場合(4章参照)はこのコントロールパネル(Control Panel)を開いてください。この章ではコントロールパネルの各設定機能について解説します。6.1 へと進んでください。



設定時に問題がある場合は、オーディオトラブルシューティングガイド(Audio Troubleshooting Guide)を参照してください(コントロールパネルの Diagnostics ページにある Information セクションから、またはソフトウェアの資料フォルダから開いてください)。

Mac OS® X

Mac OS® X では、TRAKTOR AUDIO 10 ポート設定用ダイアログと、オーディオと MIDI 設定ダイアログがそれぞれあります。

- ポート設定はコントロールパネルソフトウェア(アプリケーション> Native Instruments > TRAKTOR AUDIO 10 Driver > TRAKTOR AUDIO 10 Control Panel)で行います。ソフトウェアは2章でのソフトウェアインストール時にコンピュータにインストール済みです。
- Mac OS® X ではオーディオと MIDI の詳細設定はアプリケーション > ユーティリティフォルダ内にあるAudio MIDI 設定で行います。ハードウェアをコンピュータに接続した後、ドライバのインストール後(2章)、インターフェイス32デフォルトオーディオ機器として設定した後(4章)はこの Audio MIDI 設定を開きます。

6.2 へと進んでください。



設定時に問題がある場合は、オーディオトラブルシューティングガイド(Audio Troubleshooting Guide)を参照してください(ソフトウェアの資料フォルダからアクセスしてください)。

6.1 Windows®での詳細設定 (コントロールパネル、Control Panel)

コントロールパネルソフトウェアでポートの設定、ドライバのパフォーマンス設定、モニターパフォーマンス設定、エラーの検出を行います。コントロールパネルを開く方法は以下です。

- ▶ Start > All Programs > Native Instruments > TRAKTOR AUDIO 10 Driver > Control Panel と進みます。



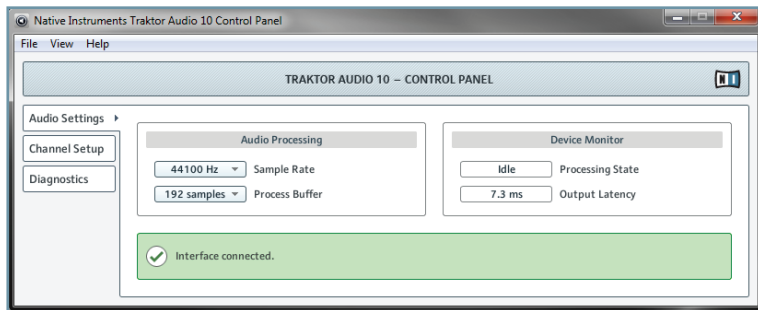
コントロールパネルが見つからない場合はソフトウェアがインストールされていない可能性が高いです。この場合、2章で解説しているようにソフトウェアを再インストールしてください。

コントロールパネルの左には [Audio Settings](#)、[Channel Setup](#)、[Diagnostics](#) の各タブがあります。

▶ 各タブをクリックして任意のコントロールパネルのページを開いてください。

6.1.1 と 6.1.2 と 6.1.3 を参照してコントロールパネルの各ページについて参照してください。

6.1.1 Audio Settings ページ

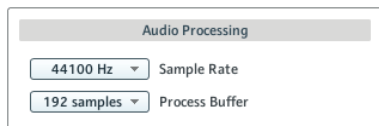


6.1 コントロールパネルの [Audio Settings](#) ページです。

[Audio Settings](#) ページで、オーディオレイテンシー、サンプルレートの設定、機器の状況をモニターします。

[Audio Settings](#) ページには 2 つのセクションがあり、それらは、[Audio Processing](#) と [Device Monitor](#) です。以下の章で詳細を確認してください。

Audio Processing セクション



6.2 コントロールパネルの [Audio Settings](#) ページ内にある [Audio Processing](#) セクションです。

[Audio Processing](#) セクションではオーディオインターフェイスによるアナログ/デジタル、デジタル/アナログ変換用各パラメーターを設定します。メニューは 2 つです。

- **サンプルレート(Sample Rate):** 使用している音楽アプリケーションに対応した最適なサンプル・レートを選択してください。サンプルレートを高くするほど CPU ロードも高くなります。デフォルトでサンプルレートは 44100 Hz (CDの音声品質と同等)に設定してあります。



サンプルレートでサウンドを1秒間にどれだけ録音/再生するか設定します。高いサンプルレートになるほど音質がよくなります。44100 Hz (CD 規格) が一般的な値です。録音媒体が CD である場合はこの設定、または倍に設定します(88200 Hz)。48000 Hz は DAT または DVD (映画)用規格値です。96000 Hz 以上の値は DVD、HD DVD、Blu-ray Disc で使用します。サンプルレートを高くするほど CPU ロードも高くなります。



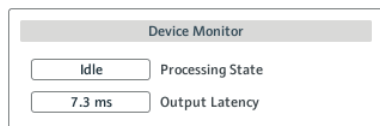
機器を用いてソフトウェアを複数同時使用する場合は同じサンプルレートを使用しなくてはならないことに注意してください。

- **Process Buffer(プロセスバッファ):** バッファサイズを小さくするほどコンピュータからオーディオソフトウェア、MIDI コントローラーの操作に対する反応速度が速くなります。



オーディオをデジタル、またはアナログ変換する場合、オーディオドライバがデータをバッファとして保管する必要がある(オーディオバッファ)、これらは CPU によって処理、送信されます。バッファサイズが大きくなるほど、シグナルがアウトプットまで到達するまでの時間がかかります。顕著な例としてコンピュータのキーまたはコントローラーを操作してから音声が出力されるまでに遅ることがあげられます。この遅れをレイテンシーと呼びます。バッファサイズを下げるほどレイテンシー値も下がります。レイテンシーにはバッファサイズの他にも原因となる要素があります(例、CPU スピードと RAM サイズ)。この設定の際は高いバッファサイズ設定から始め、システムパフォーマンスと音声に問題がなくなるまでこの値を徐々に下げることで設定するとよいでしょう。オーディオインプットに問題が生じる場合は、使用しているコンピュータの CPU では現在のバッファサイズが適切では無いことを意味します。

Device Monitor セクション



6.3 コントロールパネルの [Audio Settings](#) ページ内の [Device Monitor](#) セクションです。

Device Monitor セクションではオーディオインターフェイスの処理状況とシステムのアウトプットレイテンシーを表示します。ディスプレイ内容は 2 つです。

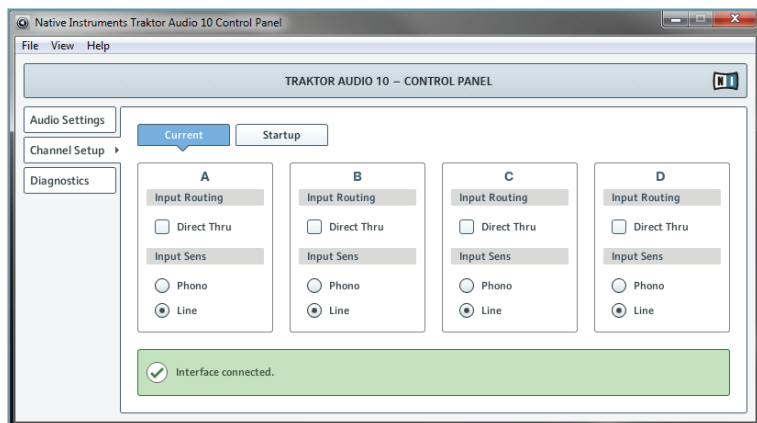
- **Processing State:** このモニターでは機器の現在の状態を表示します。表示内容は以下の 3 つです。
 - **Idle:** インターフェイスは接続された状態ですが、オーディオデータは送信されていません。
 - **Streaming:** ドライバが起動しており、音声を処理していることを示します。
 - **Panic:** ドライバが起動停止した状態です。これはインターフェイス内のコミュニケーション中に処理しきれない程 USB I/O エラーが生じたことを意味します。
- **Output Latency:** アウトプットレイテンシーの量をミリセカンド単位で表示します。

6.1.2 Channel Setup (Windows® でのポート設定)

Channel Setup ページで TRAKTOR AUDIO 10 の各ポート(A から D)の設定を行います。このエリアでポートが **Phono** または **Line** どちらのシグナルを扱うか、コンピューターでの内部処理を行わずに直接出力する (**Direct Thru**) 各設定を行います。各ポートで一時的設定(**Current**) またはデフォルト設定を使用するか (**Startup**) 選択することが可能です。



デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために PHONO となっており(Direct Thru モードも有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために LINE となっています(Thru モードも有効な状態となっています)。



6.4 Windows® 上のコントロールパネルです。

ポートオプション

各ポート(A-D) のポート設定エリアには 2 つのコントロールセクションがあり、それらは **Input Routing** と **Input Sens** です。

- **Input Routing:**
 - ・ 入力シグナルをコンピューター内で処理しない場合は **Direct Thru** チェックボックスをチェックします。この機能は**アナログミックス**用で(例、ターンテーブルを使用してレコードをミックスする場合)、ポートのインボットから直接ポートのインプットに出力する場合に使用します。注意: **スタンドアローンモード** (コンピューターを使用しない)でサウンドカードを使用してアナログミックスを行う場合、**Direct Thru** を起動しておく必要があります。以下の”一時設定とデフォルト設定について(Current と Startup)”サブセクションを参照して初始動時のサウンドカードの設定について参照してください。
 - ・ **デジタルミキシング**時(タイムコードヴァイナル、CD を使用する場合には)は **Direct Thru** オプションは無効の状態にしてください。デジタルミキシングの場合、タイムコードを用いたシグナルをコンピューター内のDJ ソフトウェアで処理する必要があります。

- **Input Sens:**

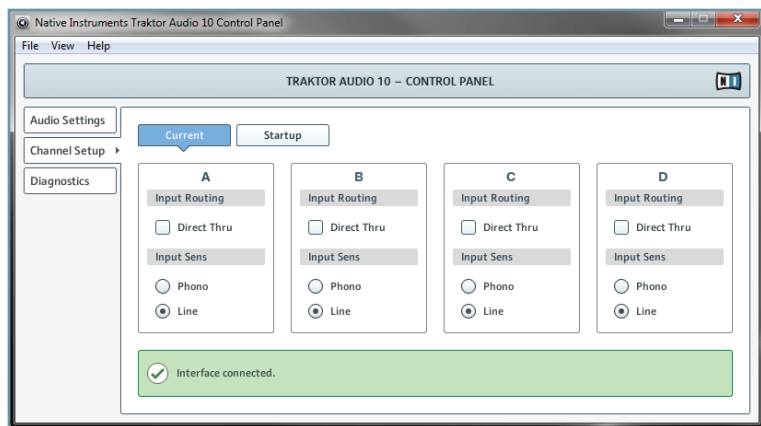
- **ターンテーブル**をポートに接続する場合は、**Phono** を選択します(ターンテーブルを使用する場合は、デジタルでもアナログでも Phono を使用してください)。
- **CD デッキ**(またはシンセ、MP3 プレイヤー、テープデッキ等のライン入力機器)をポートに接続する場合は、**Line** を選択します。

A から D までの各ポートにはアナログレコードを使用するターンテーブル、タイムコードヴァイナルを使用するターンテーブル、CD デッキ、タイムコードディスクを使用する CD、その他のライン入力機器のどれかを接続する為に使用します。



デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために PHONO となっており(Direct Thru モードも有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために LINE となっています(Thru モードも有効な状態となっています)。

一時設定とデフォルト設定について(Current と Startup)



6.5 **Current** セットアップタブを選択した状態の Channel Setup です。

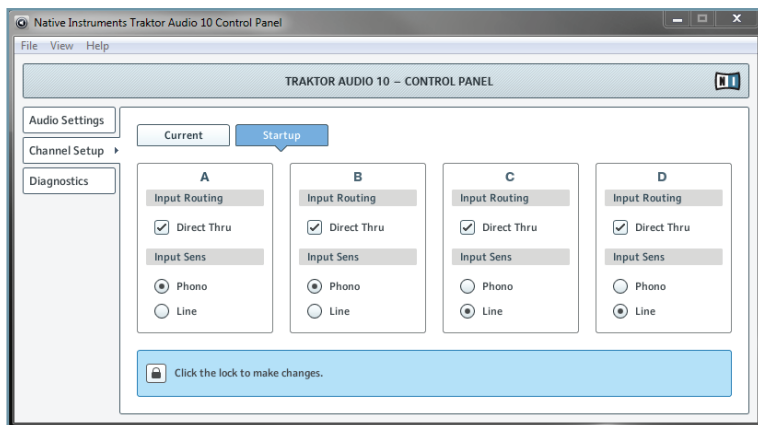
Channel Setup ページには TRAKTOR AUDIO 10 のポート A から D を設定する為の 2 つのタブがあり、それらは **Current** セットアップと **Startup** セットアップタブです。

- 初始動時、この **Current** セットアップは **Startup** セットアップタブ(これがデフォルト設定です)での設定内容を再現します。これらの設定内容を一時的に変更することも可能で、変更した設定内容は機器から電源を取り外すまで有効となります。



USB ケーブルを取り外しても **Current** セットアップに影響はありません。

- **Startup** セットアップタブはサウンドカードのデフォルト設定として機能し、機器から電源を取り外したときにこの設定内容にリセットされます。ここでの変更内容を適用するには、まず **Click the lock to make changes** ダイアログボックスのロックシンボルをクリックしてください。そして変更内容を適用する為に **Save** ボタンをクリックします。



6.6 Startup セットアップタブを選択した状態の Channel Setup です。

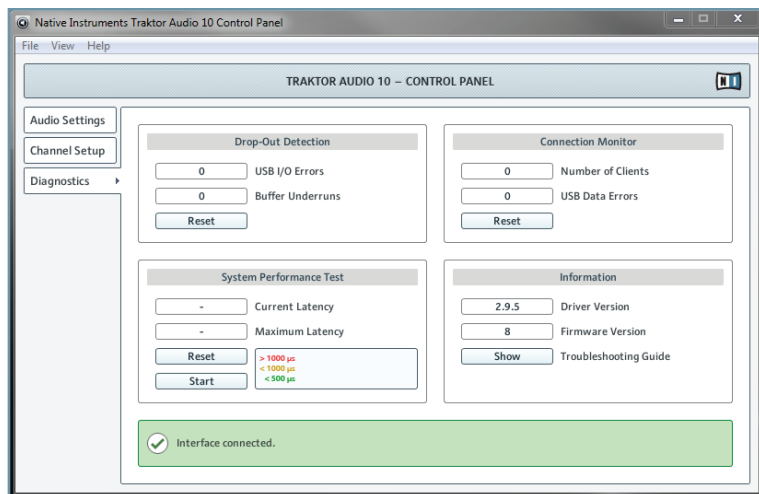


デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために PHONO となっており(Direct Thru モードも有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために LINE となっています(Thru モードも有効な状態となっています)。



スタンドアローンモードで TRAKTOR AUDIO 10 (コンピュータを使用しない場合)を使用する場合、Startup セットアップで関係するポートの Direct Thru を起動しておく必要があります。そうすることでインプットチャンネルが直接アウトプットチャンネルへと伝達されます。Direct Thru が無効の場合、サウンドカードをスタンドアローンモードで起動しても関係するポートのアウトプットは出力されません。

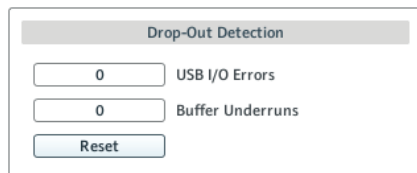
6.1.3 Diagnostics ページ



6.7 コントロールパネルの [Diagnostics](#) ページです。

Diagnostics ページではモニターパフォーマンスとエラー検出を行います。このページにある情報は上級者向けですが、サウンドカードに問題がある場合はこのページを参考にすると便利でしょう。Diagnostics ページは4つのセクションがあり、それらは Drop-Out Detection、Connection Monitor、System Performance Test、Information となっています。詳細は以下の各章を参照してください。

Drop-Out Detection セクション



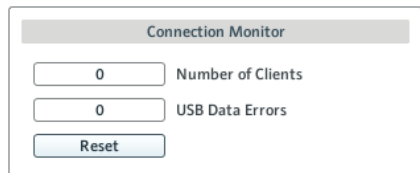
6.8 コントロールパネルの [Diagnostics](#) にある [Drop-Out Detection](#) セクションです。

Drop Out Detection セクションには USB インプット/アウトプットとバッファリングエラーに関する情報を備えています。ここには 2 つのディスプレイとボタンがあります。

- **USB I/O Errors:** USB のインプット/アウトプットエラーを表示します。高い **USB I/O Errors** の数値はシステムがオーバーロードしていることを意味します。

- **Buffer Underruns:** バッファアンダーラン(Buffer underruns)はオーディオバッファを正確に処理できなかった場合に生じます。アンダーランはバックグラウンド処理が多すぎる場合、または音楽ソフトウェア内の CPU 消費が多すぎる場合に生じます。バッファサイズ(Audio Settings ページの Audio Processing セクションにある Process Buffer がそれです) 後を大きくすることでアンダーランを防ぐことが可能です。
- **Reset:** このボタンをクリックしてエラーカウントをリセットします。

Connection Monitor セクション

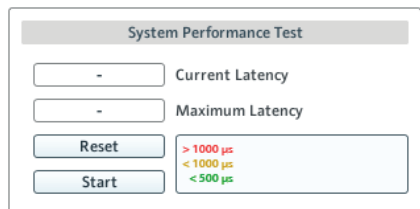


6.9 コントロールパネルの Diagnostics ページにある Connection Monitor セクションです。

Connection Monitor セクションでは接続してあるクライアントと USB データエラー情報を提示します。ここには 2 つのディスプレイとボタンがあります。

- **Number of Clients:** インターフェイスに接続してあるクライアントの数を表示します。複数の ASIO アプリケーションは個別に数えられます。WDM と WASAPI では 複数の WDM/ WASAPI アプリケーションでオーディオを再生していても、単体(1個)として数えます。
- **USB Data Errors:** USB データエラーをカウントします。程度が悪い USB ケーブルの使用、または長い USB ケーブルの使用は USB バスの接続不良の原因となります。
- **Reset:** このボタンをクリックしてエラーカウントをリセットします。

System Performance Test Section(システムパフォーマンステストセクション)



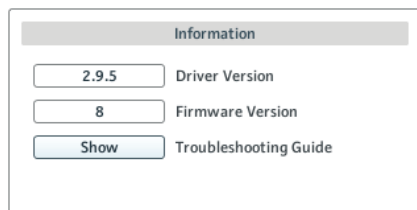
6.10 コントロールパネルの Diagnostics ページにある System Performance Test セクションです。

System Performance Test セクションで Windows® システムの現在の DPC (Deferred Procedure Call, 遅延プロシージャコール) レイテンシー値を提示します。Deferred Procedure Call は Windows® のメカニズムに含まれるもので、重要な処理内容の優先するためのものです。ここでの DPC レイテンシーは10.1 で解説したようなレイテンシー全体を示すものではなく、この値に追加されるものです。このセクションには 2 つのディスプレイとボタンを備えています。

- **Current Latency:** 現在の DPC レイテンシー値を示します。

- **Maximum Latency:** モニタリングを開始してからの DPC レイテンシーの最高値を示します。
- **Reset :** このボタンを押して **Maximum Latency** 値をゼロにリセットします。
- **Start/Stop:** このボタンを押して DPC レイテンシー値の計測を開始します。計測を開始するとこの表示が **Stop** に変わります。

Information セクション



6.11 コントロールパネルの Diagnostics ページの Information セクションです。

Information セクションではドライバとファームウェアの情報を表示、またここから Audio Troubleshooting Guide へのアクセスも可能です。このセクションには2つのディスプレイとボタンがあります。

- **Driver Version:** ドライバのバージョンをここで確認します。
- **Firmware Version:** ファームウェアのバージョンをここで確認します。
- **Troubleshooting Guide:** **Show** をクリックしてオーディオトラブルシューティングガイド(Audio Troubleshooting Guide)を開きます。

6.2 Mac OS® X での詳細設定(Audio MIDI Setup)

Mac OS® X では、TRAKTOR AUDIO 10 ポート設定用ダイアログと、インターフェイスのオーディオクオリティと MIDI 設定ダイアログがそれぞれあります。

- チャンネル設定はコントロールパネルソフトウェア(アプリケーション > Native Instruments > TRAKTOR AUDIO 10 Driver > TRAKTOR AUDIO 10 Control Panel)で行います。6.2.1 へと進んで
- Mac OS® X ではオーディオと MIDI の詳細設定はアプリケーション > ユーティリティフォルダ内にあるAudio MIDI 設定で行います。6.2.2 へと進んで

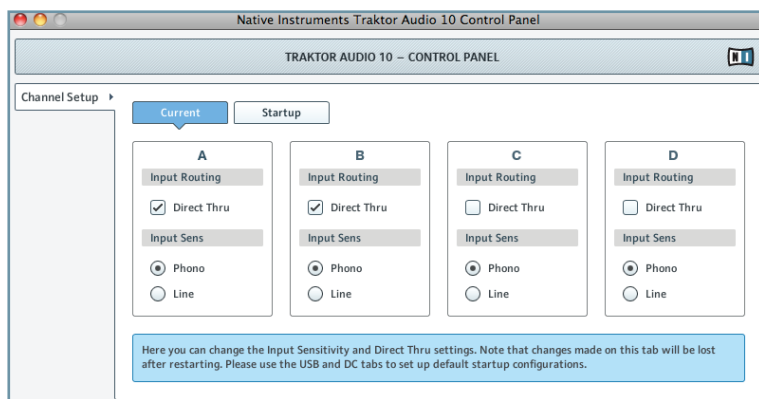


設定時に問題がある場合は、オーディオトラブルシューティングガイド(Audio Troubleshooting Guide)を参照してください(ソフトウェアの資料フォルダからアクセスしてください)。

6.2.1 Channel Setup (Mac OS® X でのポート設定)

コントロールパネルソフトウェア内の**Channel Setup** ページで TRAKTOR AUDIO 10 の A から D までの各ポートの設定を行います。ここでポートの **Phono** または **Line** シグナルの使い分け、**Direct Thru** の使用の有効化、無効化の設定を行います。更に各ポートで一時設定 (**Current**) にするかデフォルト設定(**Startup**) を使用するか選択することが可能です。

コントロールパネルを開くには アプリケーション > Native Instruments > TRAKTOR AUDIO 10 Driver > TRAKTOR AUDIO 10 Control Panel と進みます。



6.12 Mac OS® X 上でのコントロールパネルです。

ポートオプション

各ポート(A-D) のポート設定エリアには 2 つのコントロールセクションがあり、それらは **Input Routing** と **Input Sens** です。

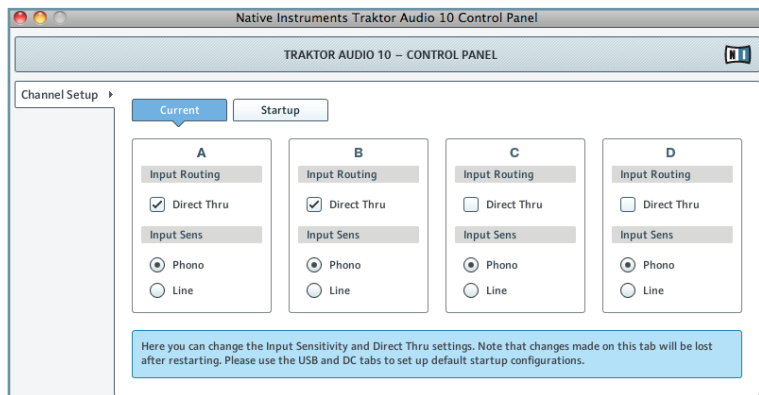
- **Input Routing:**
 - 入力信号をコンピュータ内で処理しない場合は **Direct Thru** チェックボックスをチェックします。この機能は**アナログミックス**用で(例、ターンテーブルを使用してレコードをミックスする場合)、ポートのインポットから直接ポートのインプットに出力する場合に使用します。注意: **スタンドアローンモード** (コンピュータを使用しない)でサウンドカードを使用してアナログミックスを行う場合、**Direct Thru** を起動しておく必要があります。以下の”一時設定とデフォルト設定について(Current と Startup)”サブセクションを参照して初起動時のサウンドカードの設定について参照してください。
 - **デジタルミキシング**時(タイムコードヴァイナル、CD を使用する場合には **Direct Thru** オプションは無効の状態にしてください。デジタルミキシングの場合、タイムコードを用いた信号をコンピュータ内のDJ ソフトウェアで処理する必要があります。
- **Input Sens:**
 - **ターンテーブル**をポートに接続する場合は、**Phono** を選択します(ターンテーブルを使用する場合は、デジタルでもアナログでも **Phono** を使用してください)。
 - **CD** デッキ(またはシンセ、MP3 プレイヤー、テープデッキ等のライン入力機器)をポートに接続する場合は、**Line** を選択します。

A から D までの各ポートにはアナログレコードを使用するターンテーブル、タイムコードヴァイナルを使用するターンテーブル、CD デッキ、タイムコードディスクを使用する CD、その他のライン入力機器のどれかを接続する為に使用します。



デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために PHONO となっており (Direct Thru モードも有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために LINE となっています (Thru モードも有効な状態となっています)。

一時設定とデフォルト設定について(Current と Startup)



6.13 Current セットアップタブを選択した状態の Channel Setup ページです。

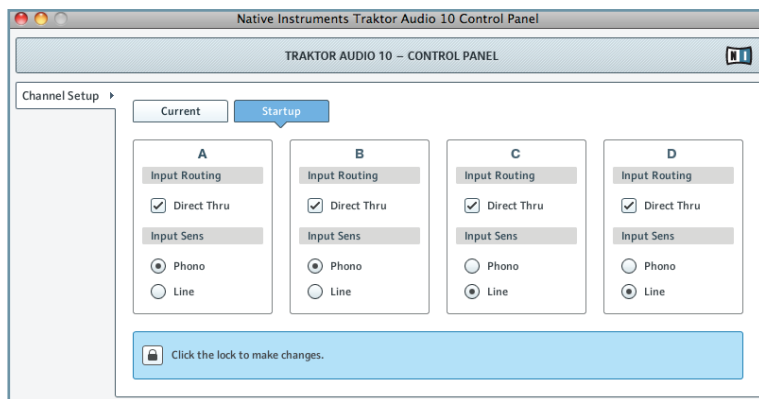
Channel Setup ページには TRAKTOR AUDIO 10 のポート A から D を設定する為の 2 つのタブがあり、それらは **Current** セットアップと **Startup** セットアップタブです。

- 初動時、この **Current** セットアップは **Startup** セットアップタブ(これがデフォルト設定です)での設定内容を再現します。これらの設定内容を一時的に変更することも可能で、変更した設定内容は機器から電源を取り外すまで有効となります。



USB ケーブルを取り外しても Current セットアップに影響はありません。

- **Startup** セットアップタブはサウンドカードのデフォルト設定として機能し、機器から電源を取り外したときにこの設定内容にリセットされます。ここでの変更内容を適用するには、まず **Click the lock to make changes** ダイアログボックスのロックシンボルをクリックしてください。そして変更内容を適用する為に **Save** ボタンをクリックします。



6.14 Startup セッティングタブを選択した状態の Channel Setup ページです。



デフォルトでサウンドカードのポート A/B は、アナログミックスによるターンテーブルの使用のために PHONO となっており(Direct Thru モードも有効な状態となっています)、ポート C/D はアナログミックスによる CD デッキ使用のために LINE となっています(Thru モードも有効な状態となっています)。



スタンドアローンモードで TRAKTOR AUDIO 10 (コンピュータを使用しない場合)を使用する場合、Startup セッティングで関係するポートの Direct Thru を起動しておく必要があり、そうすることでインプットチャンネルが直接アウトプットチャンネルへと伝達されます。Direct Thru が無効の場合、サウンドカードをスタンドアローンモードで起動しても関係するポートのアウトプットは出力されません。

6.2.2 オーディオ設定

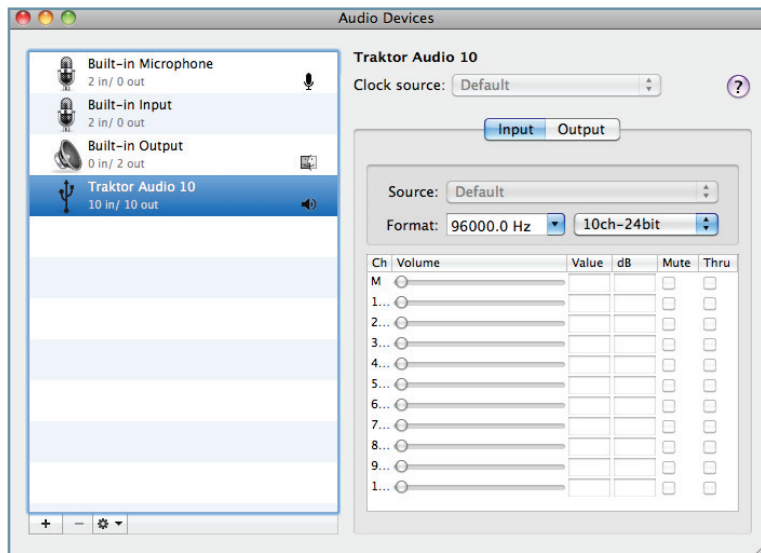
Audio MIDI Setup ユーティリティは以下の方法で表示します。

▶ アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI 設定 と進んでください。

→ [Audio Devices](#) と明記された Audio MIDI Setup ユーティリティが表示されます。

画面の左半分ではコンピュータにインストールしてある異なるハードウェアとソフトウェアの各インとアウトを表示します。ここで何も選択していない場合は、[Traktor Audio 10](#) を選択します。

Input Pane(インプットペイン)



6.15 Mac OS® X の Audio MIDI 設定の Input ペインです。

Audio MIDI 設定の **Input** ペインではサンプルレートの設定を行います。ここに関連する設定項目は **Format** ドロップダウンメニューです。

- **Format:** 音楽ソフトと使用しているコンピュータの処理性能に適したサンプル レートを選択します。サンプルレートを高くするほど CPU ロードも高くなります。



サンプルレートでサウンドを1秒間にどれだけ録音/再生するか設定します。 高いサンプルレートになるほど音質がよくなります。44100 Hz (CD 規格) が一般的な値です。録音媒体が CD である場合はこの設定、または倍に設定します(88200 Hz)。48000 Hz は DAT または DVD (映画)用規格値です。96000 Hz 以上の値は DVD、HD DVD、Blu-ray Disc で使用します。 サンプルレートを高くするほど CPU ロードも高くなります。

Output Pane(アウトプットペイン)

Output ペインでは **Configure Speakers...** ボタンでスピーカーの設定を変更します。詳細は Mac OS® X の資料で確認してください。

7 TRAKTOR AUDIO 10 を使用する(各設定例の紹介)

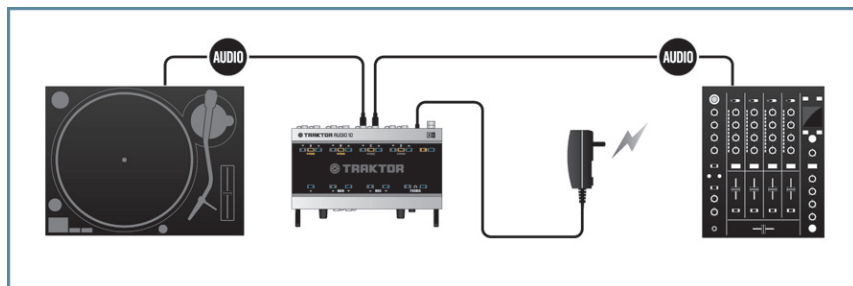
この章では TRAKTOR AUDIO 10 の各設定例を紹介します。全ての設定例を紹介できるわけではありませんが、ここで紹介する例を元にご自身のアイデアでこれらの例を応用してください。

! まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説した ーに電源を正しく接続しているかそれぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照)。

7.1 アナログ DJ セットアップ

この 章では TRAKTOR AUDIO 10 とターンテーブル/CD デッキを用いたアナログ DJ 用設定方法を紹介します。

7.1.1 アナログ DJ 用にターンテーブルを接続する



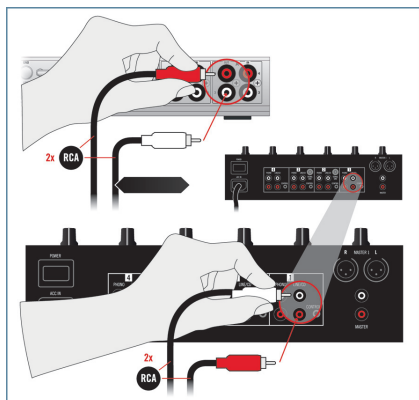
7.1 TRAKTOR AUDIO 10 とターンテーブル、ミキサーを使用したアナログ DJ 用設定方法は以下です。

! まず電源が接続してあるか確認してください (3.3 参照)5この章ではスタンドアローンモード(コンピュータは使用しません)でアナログ DJ 用にサウンドカードを使用する為の設定例を紹介します。この設定でも各関係ポートは PHONO、THRU (サウンドカードのトップパネル LED を確認してください) にし、スタンドアローンモードが機能する状態にしておいてください。ポートの設定は Control Panel (コントロールパネル)の Channel Setup ページにある Startup タブで行います。ポートの設定は 6.1.2 .1 ください。

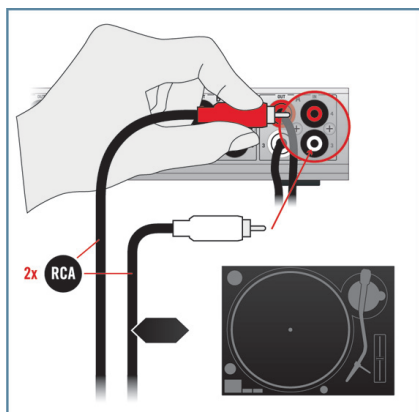
💡 アナログ、デジタル DJ 設定を同じ設定内で併用し、一方でアナログレコードを再生、もう一方でコンピュータの音声を再生することも可能です。ポートの設定は 6.1.2 .1 ください。

TRAKTOR AUDIO 10、ターンテーブル、ミキサーを使用したアナログ DJ 用設定方法は以下です。

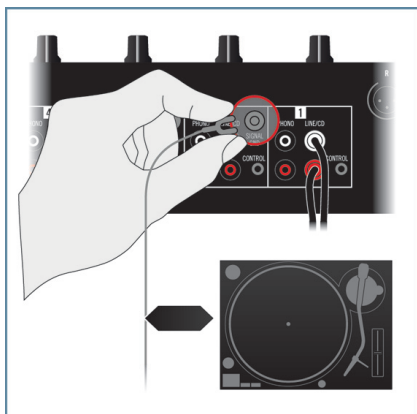
1. TA10 のリアパネルのポートの OUT チャンネルをミキサーの Line/CD インプットチャンネルに接続します。ステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。



2. ミキサーのチャンネルボリュームを最小にしておきます。
3. TA10 の同じポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルをターンテーブルに接続します。



4. ターンテーブルのグラウンド線をミキサーのグラウンドポストに配線します(TA10 のリアパネルのグラウンドポストに配線しても構いません)。

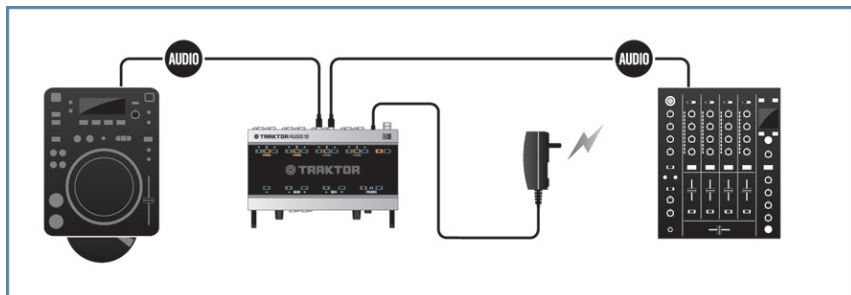


5. TA10 の選択しているポートを PHONO と THRU に設定します(サウンドカードのトップパネル LED を確認してください)。ポートの設定は TA10 をコンピュータに接続した状態でコントロールパネルソフトウェアで行います。ポートの設定に関しては 6.1.2 .1 を ださい。



6. ターンテーブルのレコードを再生してください。
7. 選択したミキサーチャンネルのボリュームを徐々に上げ適切な音量に設定してください。

7.1.2 アナログ DJ 用に CD デッキを接続する



7.2 TRAKTOR AUDIO 10、CD デッキ、ミキサーを用いたアナログ DJ 用設定



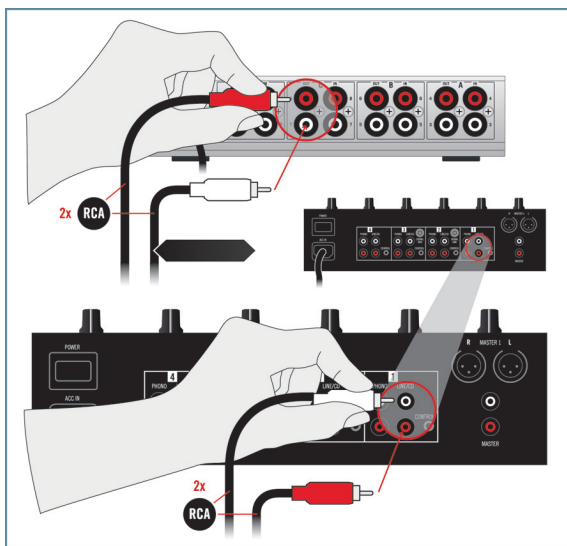
まず電源が接続してあるか確認してください (3.3 参照15この章ではスタンドアローンモード(コンピュータは使用しません)でアナログ DJ 用にサウンドカードを使用する為の設定例を紹介します。この設定でも各関係ポートは LINE、THRU (サウンドカードのトップパネル LED を確認してください) にし、スタンドアローンモードが機能する状態にしておいてください。ポートの設定は Control Panel (コントロールパネル) の Channel Setup ページにある Startup タブで行います。ポートの設定は 6.1.2 .1 ください。



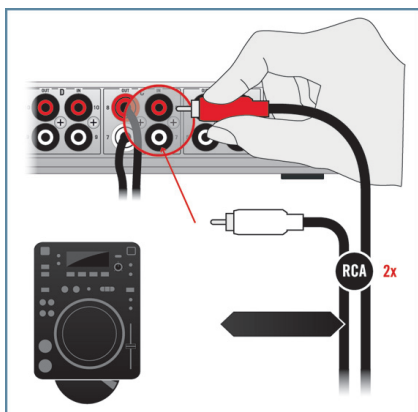
アナログ、デジタル DJ 設定を同じ設定内で併用し、一方で CD を再生、もう一方でコンピュータの音声を再生することも可能です。ポートの設定は 6.1.2 .1 ください。

TRAKTOR AUDIO 10、CD デッキ、ミキサーを使用したアナログ DJ 用設定方法は以下です。

1. TA10 のリアパネルのポートの OUT チャンネルをミキサーの Line/CD インプットチャンネルに接続します。ステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。



2. ミキサーのチャンネルボリュームを最小にしておきます。
3. TA10 の同じポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルを CD デッキに接続します。



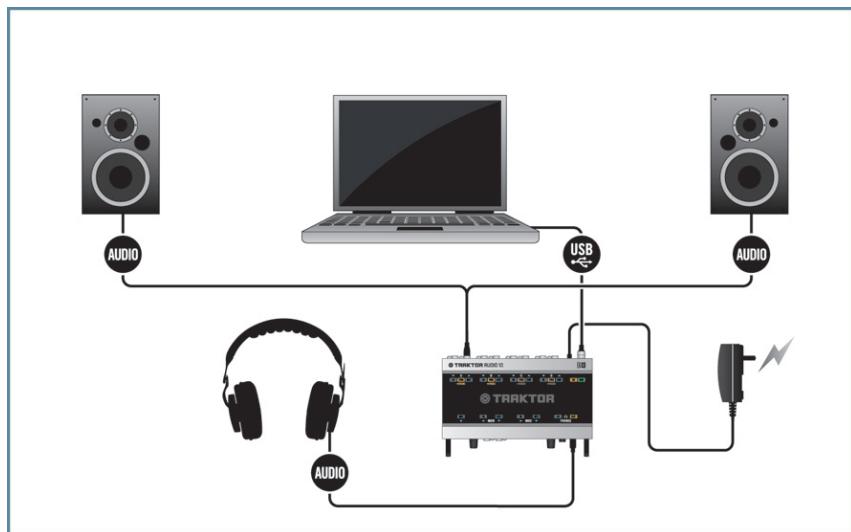
4. TA10 の選択しているポートを LINE と THRU に設定します(サウンドカードのトップパネル LED を確認してください)。ポートの設定は TA10 をコンピュータに接続した状態でコントロールパネルソフトウェアで行います。ポートの設定に関しては 6.1.2 2.1 ください。



5. CD デッキの CD を再生してください。
6. 選択したミキサーチャンネルのボリュームを徐々に上げ適切な音量に設定してください。

7.2 デジタル DJ セットアップ

7.2.1 TRAKTOR AUDIO 10 を内部ミックス用に設定する



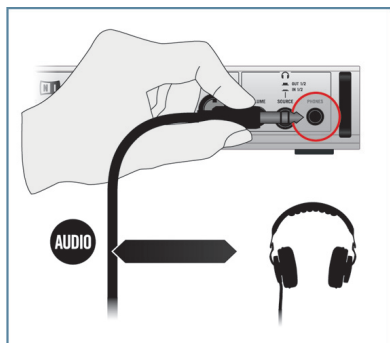
7.3 TRAKTOR AUDIO 10 と DJ ソフトウェア(内部ミキサー使用)によるデジタル DJ プレイ用設定



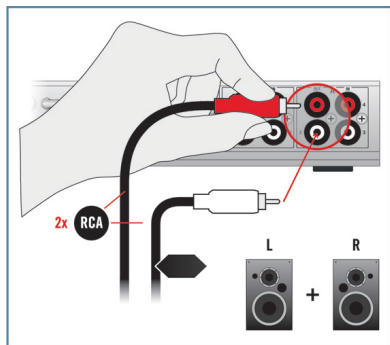
まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説 するように電源を正しく接続しているかそれぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照32)。

TRAKTOR AUDIO 10、DJ ソフトウェア(内部ミックス機能を使用)によるデジタル DJ プレイ用設定方法は以下です。

1. ヘッドフォンの 1/4" TRS ジャックを TA10 のフロントパネルの PHONES に差し込みます。ヘッドフォンボリュームコントロールノブ (VOLUME) を左いっぱいにならし、最小値に設定しておきます。



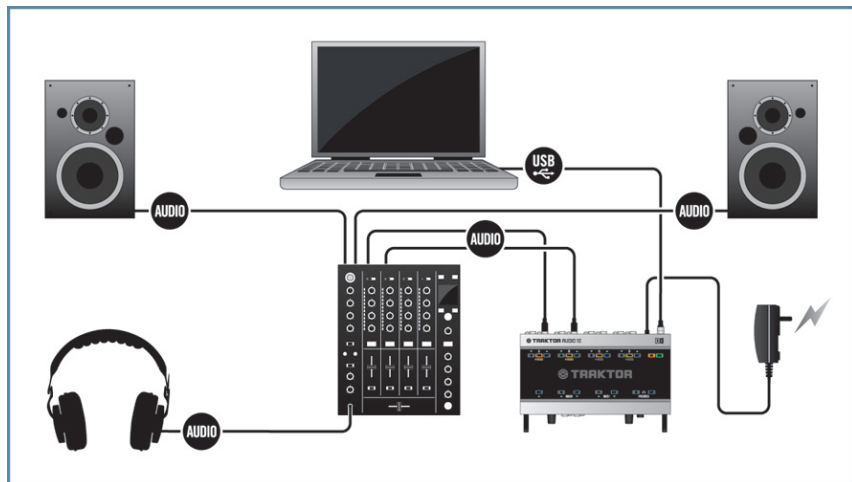
2. アクティブスピーカー/ ステレオアンプのボリュームも最小にしておきます。
3. TA10 リアパネルの選択しているポートの OUT チャンネルを(the port your DJ software outputs audio through)アクティブスピーカー/ ステレオアンプを接続します。接続にはステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。アクティブスピーカーが 1/4" または XLR ソケットを使用する場合は、RCA アダプターケーブルを使用してTA10 に接続してください。



4. DJ ソフトウェアでトラックの再生を開始してください。
5. アクティブスピーカー/ ステレオアンプのボリュームコントロールレベルを徐々に上げ、最適な音量に調節します。

 DJ ソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアの資料を参照して下さい。

7.2.2 TRAKTOR AUDIO 10 を外部ミックス用に設定する



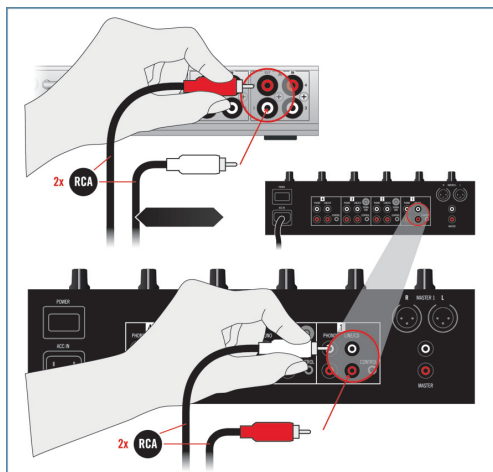
7.4 TRAKTOR AUDIO 10 と DJ ソフトウェア、外部ミキサーを使用したデジタル DJ プレイ用設定

- !** まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解したように電源を正しく接続しているかそれぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参32)。

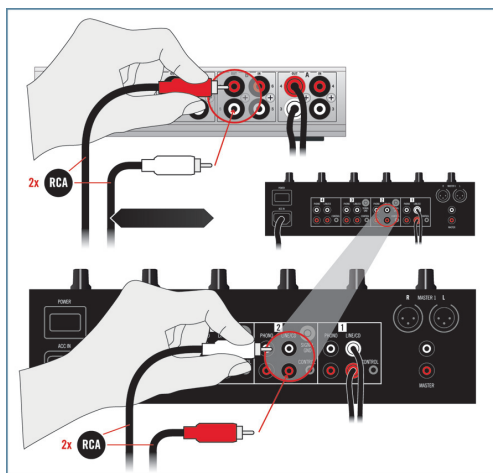
TRAKTOR AUDIO 10、DJ ソフトウェア、外部ミキサーを使用したデジタル DJ プレイ用設定方法は以下です。

1. まずミキサーの全チャンネルのボリュームと、ミキサーのヘッドフォンアウトプットボリュームを最小値にしてください。

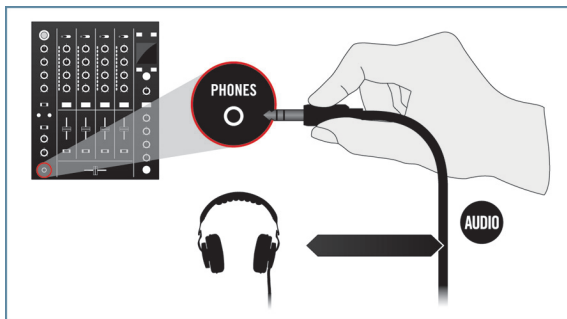
2. TA10 のリアパネルのポートの OUT チャンネルをミキサーの Line/CD インプットチャンネルに接続します。接続にはステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。TA10 で選択しているチャンネルが DJ ソフトウェアのアウトプットチャンネルにアサインしてあるか確認してください。



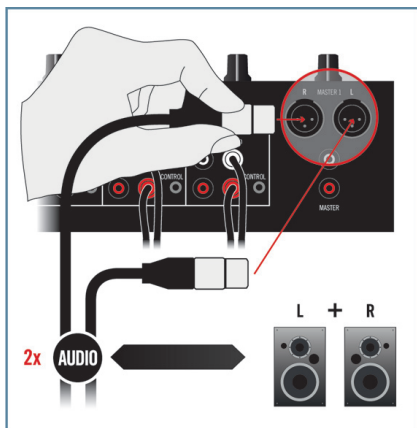
3. TA10 の他のポートの OUT チャンネルをミキサーの他の Line/CD インプットチャンネルに接続してください。TA10 で選択しているチャンネルが DJ ソフトウェアのアウトプットチャンネルにアサインしてあるか確認してください。



4. ミキサーのヘッドフォンアウトプットにヘッドフォンを接続します。



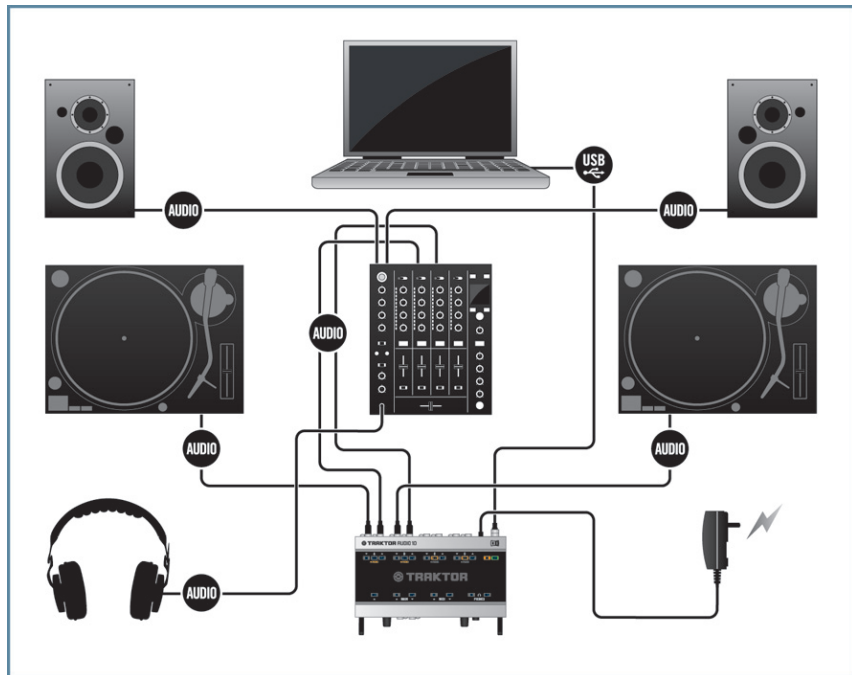
5. ミキサーのメインアウトプットをアクティブスピーカー / ステレオアンプに接続します。



6. DJ ソフトウェアでトラックの再生を開始してください。
7. ミキサーのチャンネルとヘッドフォンのボリュームを徐々に上げ適切な音量に設定してください。

! DJソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアの資料を参照して下さい。

7.2.3 タイムコードヴァイナルを使用した DJ プレイ用にターンテーブルを接続する。



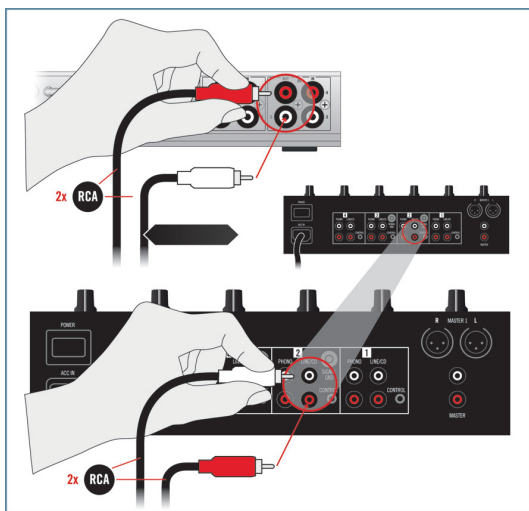
7.5 TRAKTOR AUDIO 10、DJ ソフトウェア、ターンテーブル(タイムコードヴァイナルを使用)、外部ミキサーを用いたデジタル DJ プレイ用設定

- !** まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説したように電源を正しく接続しているかそれぞれ 認ってください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照)。

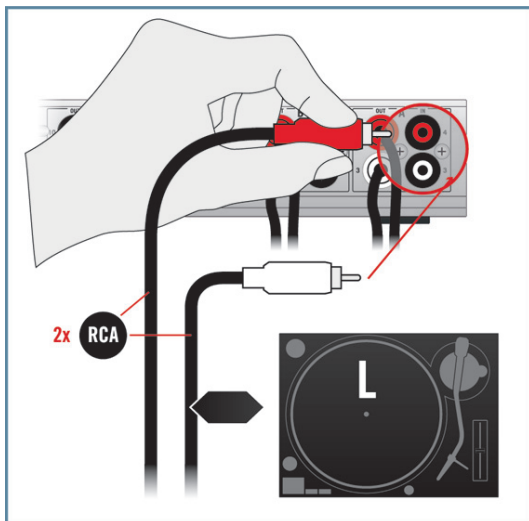
TRAKTOR AUDIO 10、32J ソフトウェア、ターンテーブル(タイムコードヴァイナルを使用)、外部ミキサーを用いたデジタル DJ プレイ用設定

1. まずミキサーの全チャンネルのボリュームと、ミキサーのヘッドフォンアウトボリュームを最小値にしてください。

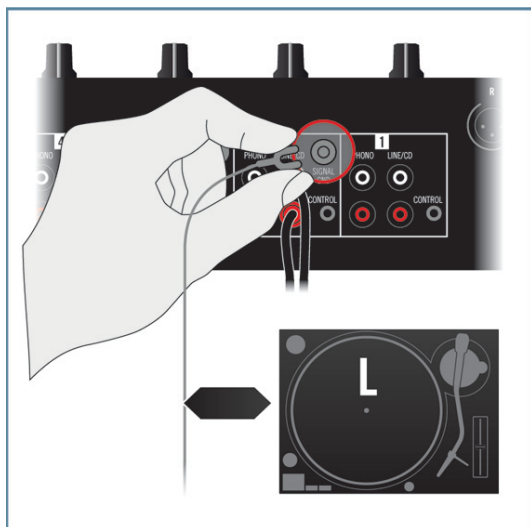
2. TA10 のリアパネルのポートの OUT チャンネルをミキサーの Line/CD インプットチャンネルに接続します。 接続にはステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。



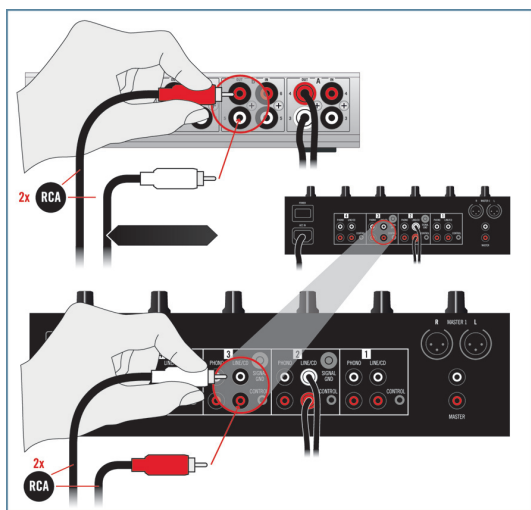
3. TA10 の同じポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルを最初のターンテーブルに接続します。



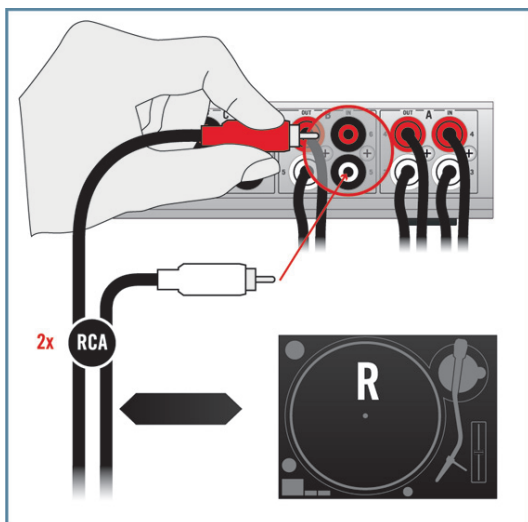
4. 最初のターンテーブルのグラウンド線をミキサーのグラウンドポストに配線します(TA10のリアパネルのグラウンドポストに配線しても構いません)。



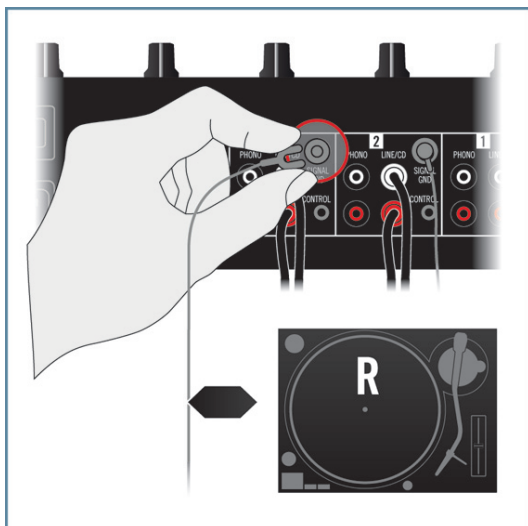
5. TA10 の他のポートの OUT チャンネルをミキサーの他の Line/CD インプットチャンネルに接続してください。



6. TA10 の次のポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルを次のターンテーブルに接続します。



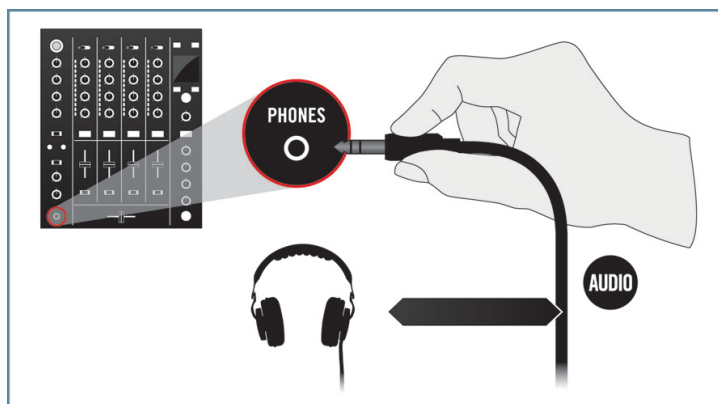
7. 次のターンテーブルのグラウンド線をミキサーのグラウンドポストに配線します(TA10 のリアパネルのグラウンドポストに配線しても構いません)。



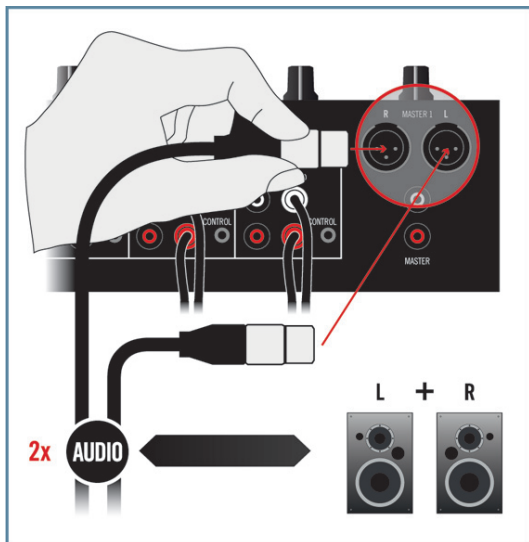
8. TA10 で選択したポートが PHONO、THRU モードが無効となっているか確認してください(サウンドカードのトップパネルの LED を確認してください)。ポートの設定は 3.2 章のソフトウェアのインストール時にインストールされるコントロールパネルソフトウェアを使用します。コントロールパネルの起動方法とポートの設定方法に関しては 6.1.2 / 6.2.1を参照してください。



9. ヘッドフォンにヘッドフォンを接続します。



10. ミキサーのメインアウトプットをアクティブスピーカー / ステレオアンプに接続します。



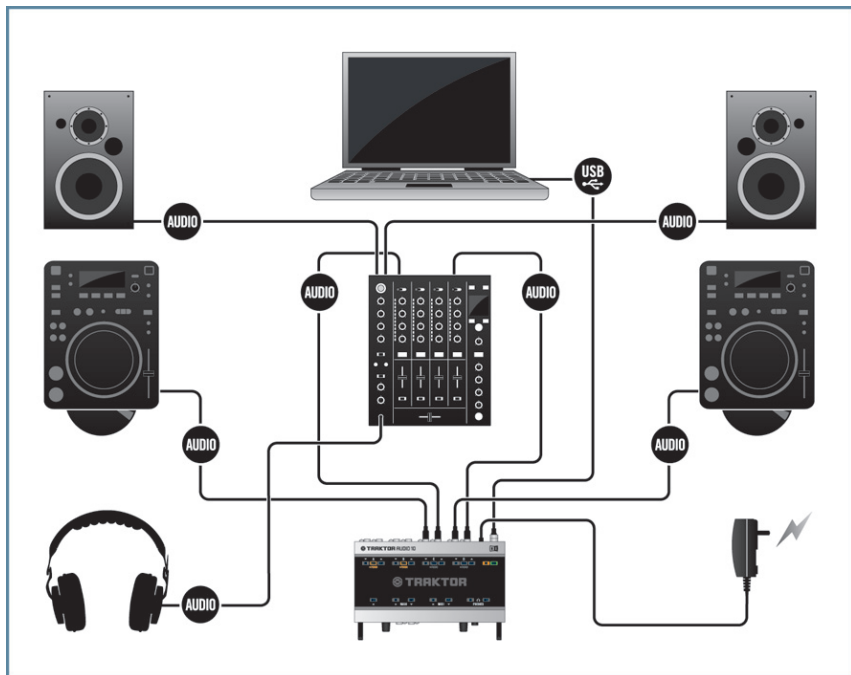
11. ターンテーブルのタイムコードを用いて DJ ソフトウェアのトラック再生を開始してください。

12. ミキサーの各チャンネルとミキサーのヘッドフォンアウトプットボリュームを徐々に上げ、適切な音量に設定してください。



TA10 のアウトプットチャンネルが DJ ソフトウェアのアウトプットに正しく接続されているか確認してください。DJ ソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアの資料を参照して下さい。

7.2.4 タイムコード CD を使用した DJ プレイ用に CD デッキを接続する。



7.6 TRAKTOR AUDIO 10、DJ ソフトウェア、CD デッキ(タイムコード CD を使用)、外部ミキサーを使用したデジタル DJ 用設定

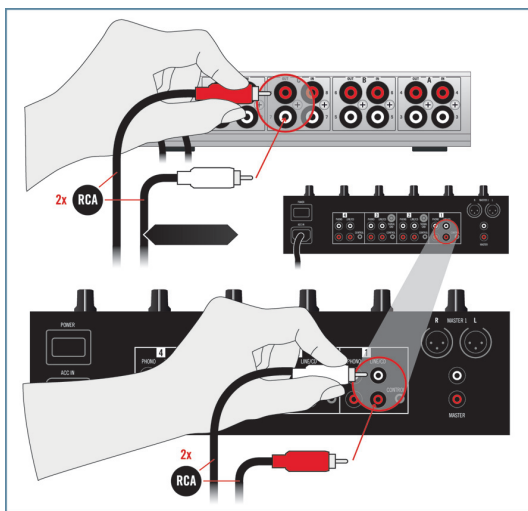


まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説したように電源を正しく接続しているかそれれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照)。

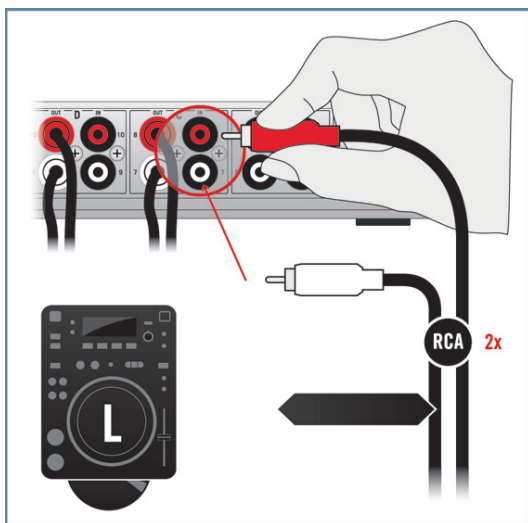
TRAKTOR AUDIO 10、DJ ソフトウェア、CD デッキ(タイムコード CD を使用)、外部ミキサーを用いたデジタル DJ プレイ用設定

1. まずミキサーの全チャンネルのボリュームと、ミキサーのヘッドフォンアウトブットボリュームを最小値にしてください。

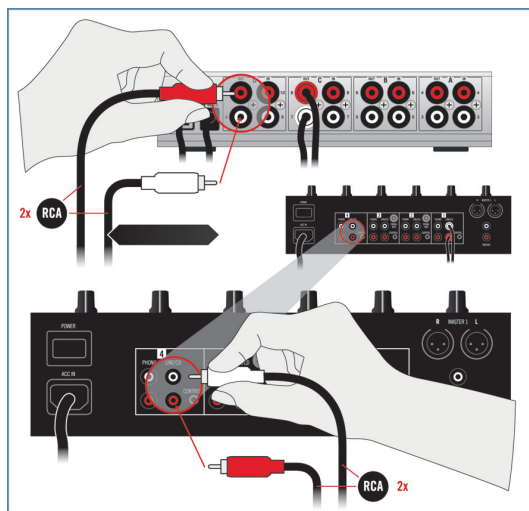
2. TA10 のリアパネルのポートの OUT チャンネルをミキサーの Line/CD インプットチャンネルに接続します。接続にはステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。



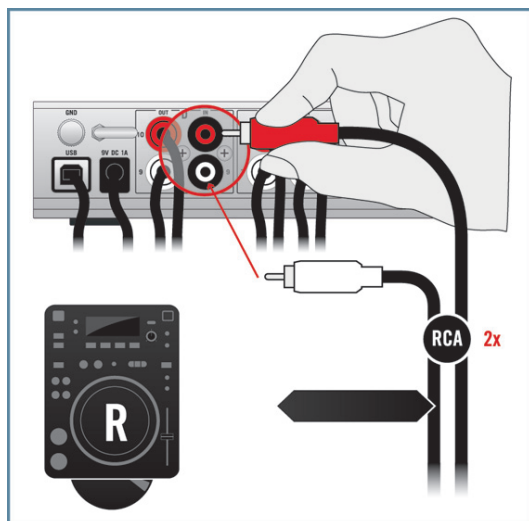
3. TA10 の同じポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルを最初の CD デッキに接続します。



4. TA10 の他のポートの OUT チャンネルをミキサーの他の Line/CD インプットチャンネルに接続してください。



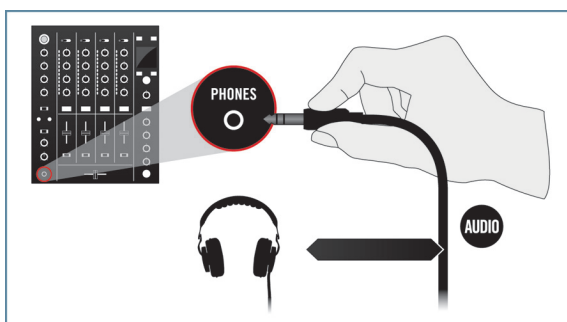
5. TA10 の次のポートの IN チャンネルからステレオ RCA (phono) ケーブルを次の CD デッキに接続します。



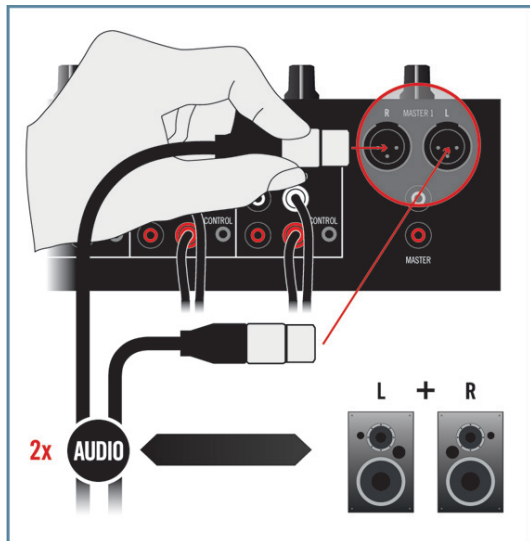
6. TA10 の選択したポートが LINE (トップパネルの PHONO LED が点灯していない状態です) になっているか、THRU モードが無効になっているかを確認してください(サウンドカードのトップパネルの LED を確認してください)。ポートの設定は 3.2 章のソフトウェアのインストール時にインストールされるコントロールパネルソフトウェアを使用します。コントロールパネルの起動方法とポートの設定方法に関しては 6.1.2 / 6.2.1 を参照してください。



7. サードパーティのオーディオ出力にヘッドフォンを接続します。



8. ミキサーのメインアウトプットをアクティブスピーカー / ステレオアンプに接続します。



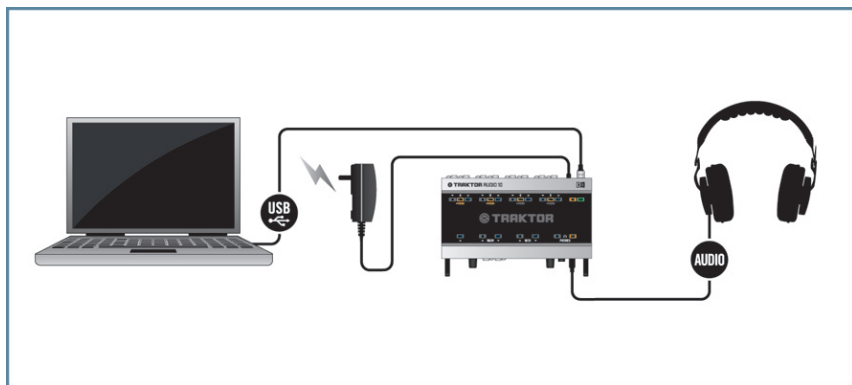
9. CD デッキのタイムコードを用いて DJ ソフトウェアのトラック再生を開始してください。
10. ミキサーの各チャンネルとミキサーのヘッドフォンアウトボリュームを徐々に上げ、適切な音量に設定してください。



TA10 のアウトプットチャンネルが DJ ソフトウェアのアウトプットに正しく接続されているか確認してください。DJ ソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアの資料を参照して下さい。

7.3 その他の設定

7.3.1 ヘッドフォンの接続

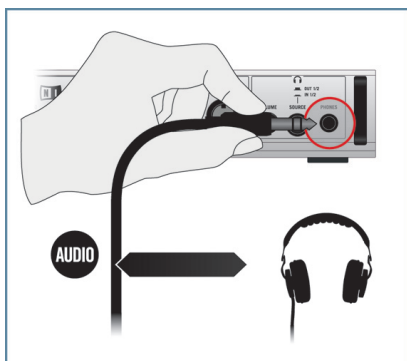


7.7 TRAKTOR AUDIO 10 とコンピュータ、ヘッドフォンを使用する為の設定方法

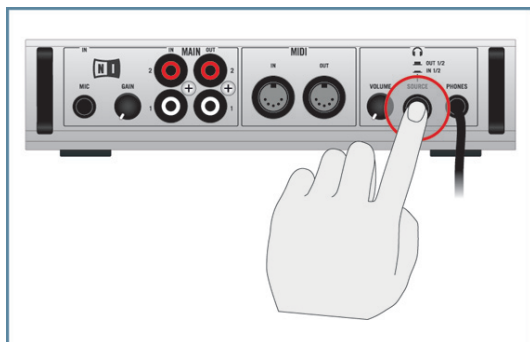
! まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説したように電源を正しく接続しているか、それぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照)。

TRAKTOR AUDIO 10 をコンピュータとヘッドフォンの使用に設定する方法は以下です。

1. ヘッドフォンの 1/4" TRS ジャックを TA10 のフロントパネルの PHONES に差し込みます。ヘッドフォンボリュームコントロールノブ (VOLUME) を左いっぱいにもわし、最小値に設定しておきます。

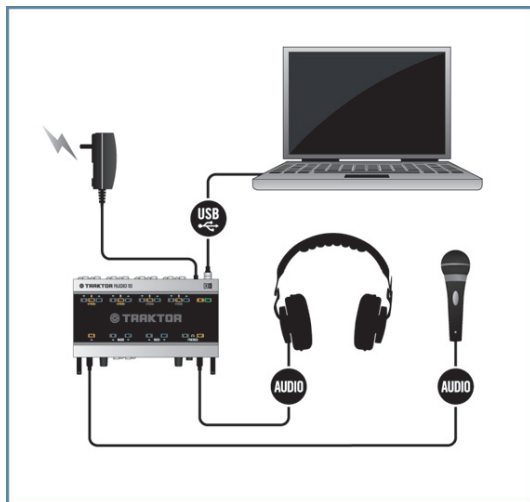


2. PHONES ソケット隣の SOURCE ボタンを使用してヘッドフォンモニタリングソースを OUT 1/2 にし、コンピュータのアウトプット信号をモニタリングします。



3. コンピュータでオーディオファイルを再生します。
4. TA10 のトップパネルにあるヘッドフォンコントロールノブ(VOLUME)を徐々に右に回し、適度な音量に調節します。

7.3.2 録音用にダイナミックマイクを接続する

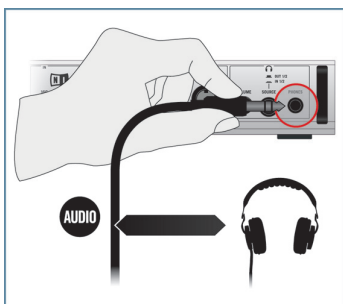


7.8 TRAKTOR AUDIO 10 とダイナミックマイク、ヘッドフォンを用いた録音用セットアップ

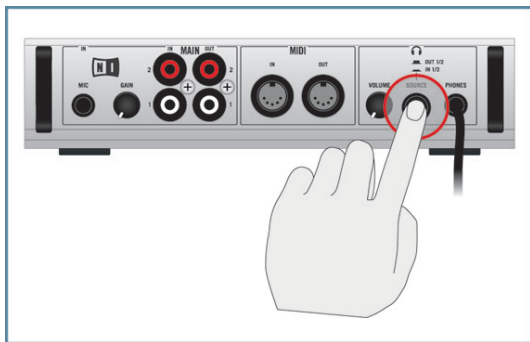
! まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説したように電源を正しく接続しているかそれぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4 章参照)。

TRAKTOR AUDIO 10 とダイナミックマイク、ヘッドフォンを用いた録音用セットアップ方法は以下です。

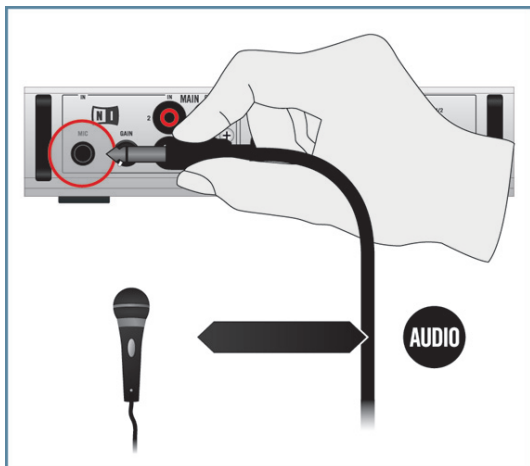
1. ヘッドフォンの 1/4" TRS ジャックを TA10 のフロントパネルの PHONES に差し込みます。ヘッドフォンボリュームコントロールノブ (VOLUME) を左いっぱいにもわし、最小値に設定しておきます。



2. PHONES ソケット隣の SOURCE ボタンを使用してヘッドフォンモニタリングソースを OUT 1/2 にし、コンピュータのアウトプット信号をモニタリングします。マイクインプット音声をレイテンシーなくモニタリングするには SOURCE を IN 1/2 にします。



3. ダイナミックマイクの 1/4" ジャックをTA10 のフロントパネルの MIC インプットに接続します。



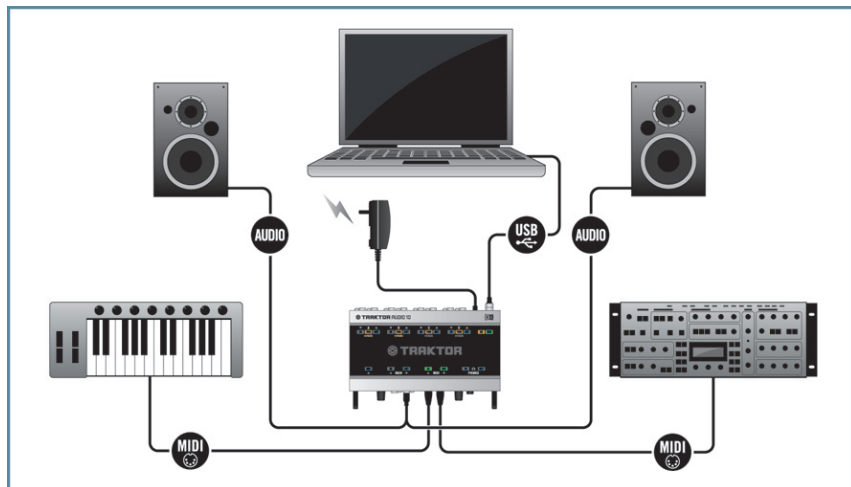
4. マイクに向かって歌い/話しながらインプットチャンネルの GAIN を右に向かって徐々にまわし、適切な音量に調整します。インプット LED (MAIN IN LED on the top panel of the soundcard) がクリップしないように確認しながらインプットレベルを調整し、LED の表示色を緑のままに保ちます。LED の赤点灯はシグナルのクリップ(シグナルが大きすぎます)を意味します。

5. TA10 のヘッドフォンセクションにあるヘッドフォンコントロールノブ(VOLUME)を徐々に右に回し、適度な音量に調節します。

🔊 フロントパネルの MAIN OUT 1/2 チャンネルを使用してマイクのインプット音声を他のミキサーチャンネル、または他のアウトプット機器に送信することも可能です(使用例、マイクを DJ 中に使用する等)。

❗ オーディオレコーディングソフトウェアの録音用オーディオインプットの調整方法についてはソフトウェアの資料を参照して下さい。

7.3.3 MIDI 機器の接続



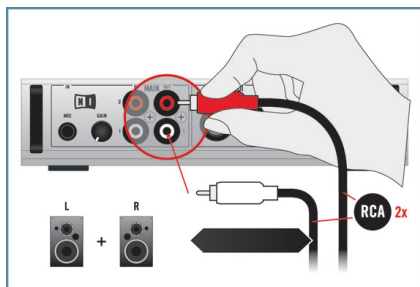
7.9 TRAKTOR AUDIO 10 と MIDI コントローラー、外部 MIDI 機器を接続する

❗ まず TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアが正しくインストールされているか、インターフェイスが正しく接続してあるか、3章で解説したように電源を正しく接続しているかそれぞれ確認してください。更に設定を進める前に、コンピュータのメインオーディオデバイスとしてサウンドカードを設定しているか確認してください(4章参照)。

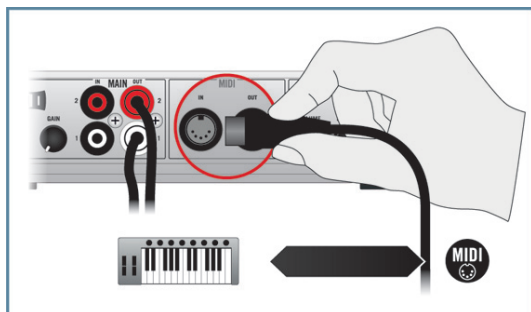
TRAKTOR AUDIO 10 と MIDI コントローラー、外部 MIDI 機器を接続する方法は以下です。

1. アクティブスピーカー/ステレオアンプのボリュームは最小にしておきます。

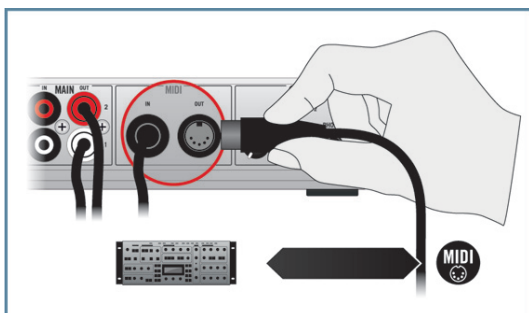
2. TA10 のフロントパネルの OUT 1/2 とアクティブスピーカー/ ステレオアンプを接続します。接続にはステレオ RCA (phono) ケーブルを使用してください。アクティブスピーカーが 1/4" または XLR ソケットを使用する場合は、RCA アダプターケーブルを使用して TA10 に接続してください。



3. MIDI コントローラーを TA10 のフロントパネルにある MIDI IN ソケットに接続します。



- シンセサイザー等のMIDI 機器を TA10 のフロントパネルにある MIDI OUT ソケットに接続します。



- デジタルオーディオワークステーションのオーディオと MIDI 設定ダイアログを開き、TRAKTOR AUDIO 10 の MIDI インプットと MIDI アウトプットチャンネルを起動します。オーディオワークステーションソフトウェアの資料を参照してここで必要な設定方法を確認して実行してください。
- アクティブスピーカー/ ステレオアンプのボリュームコントロールレベルを徐々に上げ、最適な音量に調節します。

8 トラブルシューティング(Troubleshooting)

この章の では TRAKTOR AUDIO 10 使用時に起きるほとんどの問題の解決方法をカバーしています。

8.1 ハードウェアに関する問題の解決法

Native Instruments の全製品は開発の段階から実際の使用状況を想定して繰り返しテストを行っています。ですが、ハードウェアで万が一問題が生じた場合は、以下の項目をチェックしてください

- 最新版のドライバと最新版のソフトウェア・アップデートをインストールしているか確認してください。各情報を Native Instruments のウェブサイトを確認してください。
- TRAKTOR AUDIO 10 インターフェイスがコンピュータの USB 2.0 ポートに接続してあるか確認してください(8.3参照)。
- TRAKTOR AUDIO 10 を直接 USB ポートに接続しており、USB ハブを介していないか確認してください(8.3章)。
- USB ケーブルを交換してください(8.3参照)。
- コンピュータから他の全 USB デバイスの接続を解除してください (キーボードとマウスは除く)。
- コンピュータの他の USB ポートを使用してください(8.3参照)。

以上のヒントが有効ではなかった場合は、当社のテクニカルサポートチームにご連絡ください。 連絡先に関する詳細は以下の URL <http://www.native-instruments.com/contactinfo> で確認してください。 TRAKTOR AUDIO 10 を返却する際、Native Instruments 社のテクニカルサポートチームが RA 番号を交付(Return Authorization、返品確認)します。 この RA ナンバーがないまま返品したパッケージは正しく認識されず、そのような場合は適切に処理されませんのでご注意ください。

8.2 TRAKTOR AUDIO 10 ドライバが正しくインストールされているか確認する方法

Windows®

Start > All Programs > Native Instruments > TRAKTOR AUDIO 10 Driver と進みます。 そこにはヘルプアプリケーションであるコントロールパネルアプリケーションが設置されています。 機器がコンピュータに接続してあるのを確認してからコントロールパネルを開きます。 メニュー及びオプション項目の全てがグレーの場合(例、プリセットドロップダウンリストにプリセットが表示されない場合や、選択できるサンプルレート値がない場合) は接続に問題があることを意味します。 スタートメニューの Native Instruments フォルダに TRAKTOR AUDIO 10 Driver エントリがない場合は、ドライバがインストールされていない可能性が非常に高いでしょう。

- ドライバをインストールしていない場合、2章で解説したようにインストールを行ってください。

- ドライバが認識されない場合は、8.3章を参照してUSB 2.0 接続を確認してください。
- 他のUSBデバイスと同様、ドライバは使用している USB ポートにインストールされます。 TRAKTOR AUDIO 10 を他のポートに接続すると、Windows® ダイアログが開き、そのポートにドライバをインストール可能となります。すでにドライバをインストールしたことがある場合は、Windows® が正しいドライバを探し、ドライバを見つけ次第インストールを開始します。 インストール作業をキャンセルすると、ドライバはインストールされないなのでそのポートは正しく機能しません。
- ドライバを正しくインストールしたか不明な場合は TRAKTOR AUDIO 10 のセットアッププログラムをもう一度起動することを推奨します(3章参照)。セットアッププログラムが、ドライバをまずアンインストールする必要があると表示される場合は、すでにコンピュータにドライバをインストールしてあるということを意味します。この場合 USB ポートのどこにでも接続可能で、Windows® は TRAKTOR AUDIO 10 を他の USB ポートにインストールする際に適切なドライバを検出します。

Mac OS® X

Mac OS® X ではシステム環境設定を開き Native Instruments USB Audio Control Panel(Native Instruments USB オーディオコントロールパネル) アイコンを探してください。このオーディオコントロールパネルを開いて、デバイスがあるかどうか確認してください。

- デバイスが見当たらない場合、値が灰色表示になります。ここで Native Instruments USB オーディオコントロールパネルが見つからない場合は、ドライバがインストールされていない可能性が高いでしょう。
- ドライバをインストールしていない場合、3章で解説したようにインストールを行ってください。
- ドライバが認識されない場合は、8.3章を参照してUSB 2.0 接続を確認してください。

8.3 USBのトラブルシューティング

TRAKTOR AUDIO 10、及び使用しているコンピュータ間で USB 接続に問題が生じている可能性が高い場合は、まずこの章を確認してください。ここでは、いくつかのUSBの問題に対応しています。

8.3.1 USB 2.0が必要です

TRAKTOR AUDIO 10 は USB 2.0 インターフェイスで、USB 1.0/1.1 ポートで使用することはできません。

8.3.2 他のUSBケーブルを試してみる

質の悪いUSBケーブルは、オーディオの途切れや他の接続の問題を引き起こす原因にもなります。ケーブルに問題がある場合は、異なるケーブルを試してみingことを推奨します。また公式 USB ロゴが記載してあるケーブルを使用してください。

8.3.3 電源供給付きのUSB 2.0対応ハブを使う

TRAKTOR AUDIO 10 をコンピュータの USB 2.0 ポートに接続してください。場合によっては電源付 USB ハブでは正常に機能する場合があります(例、オンボード USB ポートに TRAKTOR AUDIO 10 を接続しても正しく機能しない場合)。

8.3.4 推奨 USB-ポート (MacBook® のみ)

Mac ラップトップ(MacBook®, MacBook® Pro)の最新の推奨リストはナレッジベースを参照して下さい。<http://www.native-instruments.com/knowledge/questions/263/>

8.3.5 USB 省エネルギーモード(Windows® のみ)を無効にする

TRAKTOR AUDIO 10 がクラッシュの原因となっている、または Windows® マシン上で正常に機能しない場合は、USB ハブに対する電力管理項目を無効にしてください。無効にするための方法は Windows® の資料を参照して下さい。

8.3.6 ドライバをアップデートしてください。

問題が生じた場合は、まず使用しているソフトウェアが最新のものであるか確認してください。アップデートはウェブサイトの製品ホームページを参照して下さい。<http://www.native-instruments.com>

8.4 物理的に TRAKTOR AUDIO 10 を再設定する

TRAKTOR AUDIO 10 をコンピュータの他の USB ポートに接続します。最も正確に機器が機能する USB ポートを使用してください。

8.5 IRQ (Windows® のみ)のチェック

IRQは Interrupt Request の略称です。これは Windows® がシステム内のポートと各機器をリソースに割り当てる機能です。使用している TRAKTOR AUDIO 10 ポートが他の機器のIRQを共有している場合、IRQ 障害が生じる可能性があります。Native Instruments ウェブサイトのナレッジベース、またはサポートにコンタクトして詳細を確認してください。

9 各ヘルプ

Native Instruments では登録したユーザーに対するサポートと、情報を各種取り揃えています。

9.1 Readme(リードミー)/ Knowledge Base(資料一覧)/ テクニカルサポート

Readme

インストールCDに付属しているリードミーファイルを熟読してください。これには重要な情報や本マニュアルでは記載できなかった最新の変更点が含まれています。

ナレッジ・ベース(Knowledge Base)

<http://www.native-instruments.com/knowledgebase>からナレッジベースにアクセスしてください。ナレッジベースを閲覧するには、ユーザーアカウントにログインしてください。ユーザーアカウント登録に関しては 3.4章を参照して下さい。

テクニカルサ31

<http://www.native-instruments.com> > [Support](#) > [Product Support](#) と進んでオンラインテクニカルチームにコンタクトを取ることも可能です。記入フォームにハードウェア、ソフトウェア等の使用環境を記入することで、この内容をサポートチームが問題を把握するための手がかりとなります。サポートチームとのやり取りにおいては、使用しているハードウェア、オペレーティングシステム、ソフトウェアの各情報を可能な限り提示するようにしてください。情報として提示すべき情報は以下となっています。

- 問題に到達するまでの操作手順
- 問題解決するために自分で試した解決策
- ソフトウェア、ハードウェアを含む使用しているセットアップの内容
- 使用しているコンピュータの正確なモデル情報

9.2 フォーラム

NI TRAKTOR と NI プロデューサーフォーラムをチェックすることで TRAKTOR AUDIO 10 と TRAKTOR LE に関する情報を他のユーザーと共有することができます <http://www.native-instruments.com/djforums> <http://www.native-instruments.com/forum/>。

9.3 アップデート

問題が生じた場合は、まず使用しているソフトウェアが最新のものであるか確認してください。アップデートはウェブサイトの製品ホームページを参照して下さい。 <http://www.native-instruments.com>

10 付録

10.1 レイテンシー とバッファについて

オーディオをデジタル、またはアナログ変換する場合、オーディオドライバがデータをバッファとして保管する必要があります(オーディオバッファ)、これらは CPU によって処理、送信されます。バッファサイズが大きくなるほど、シグナルがアウトプットまで到達するまでの時間がかかります。この時間差はコンピュータの音楽ソフトウェアをコントロールする場合コントロールのキーを押したとき、またはアウトプットのサウンドの反応が遅れる際に実感できるものです。幸運にも、今日のコンピュータと低レイテンシーサウンドカードドライバによってこの遅れは通常非常に低いものとなっています(例、3 ミリ秒は 1 メートル離れた場所で指を鳴らした場合にその音が耳にまで届くまでの時間です)。レイテンシーを可能な限り抑えることで、ソフトウェアインストゥルメントと DJ アプリケーションのよりスムーズな演奏が可能な環境を整えます。

レイテンシーの下限

現在一般的なのコンピューターが処理できるレイテンシーの最小値は1.5 msです。しかし、バッファサイズ設定を最小限に設定すると(または高いサンプリングレート)、コンピューターの処理に負荷がかかるということになり、かえってオーディオ生成に影響が出る可能性もあります。

6章を参照し、バッファサイズ、サンルートを調節してレイテンシーを最小限に抑えてください。



バッファサイズとサンプルレート設定を行っても尚オーディオドロップアウトや各ノイズが生じる場合は、DPC レイテンシーチェッカープログラム(Latency Checker Program, Windows®) を使用してください。プログラムは以下のサイトにあります (http://www.thesycon.de/eng/latency_check.shtml)。

10.2 異なる種類のASIO

TRAKTOR AUDIO 10 の使用の際には TRAKTOR AUDIO 10 ソフトウェアインストールの際に同時にインストールされる専用 ASIO ドライバを使用することを強く推奨します(3章参照)。商品登録されていない SIO ドライバ(Windows® 用)もありますが、それらは殆どの場合、ASIO DirectX Full Duplex Driver または、ASIO Multimedia Driver と呼ばれています。もしどれを使用していかが分からない場合は、全てを試して一番レイテンシーが低かったものを使用してください。

The information in this document is subject to change without notice and does not represent a commitment on the part of Native Instruments GmbH. The software described by this document is subject to a License Agreement and may not be copied to other media. No part of this publication may be copied, reproduced or otherwise transmitted or recorded, for any purpose, without prior written permission by Native Instruments GmbH, hereinafter referred to as Native Instruments.

“Native Instruments”, “NI” and associated logos are (registered) trademarks of Native Instruments GmbH.

Mac, Mac OS, GarageBand, Logic, iTunes and iPod are registered trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Windows, Windows Vista and DirectSound are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Intel and Pentium are registered trademarks of Intel Corporation in the United States and other countries.

Cirrus Logic is a trademark of Cirrus Logic, Inc.

XMOS is a trademark of Xmos Ltd., UK.

All other trade marks are the property of their respective owners and use of them does not imply any affiliation with or endorsement by them.

© 2011, Native Instruments GmbH. All rights reserved.



THE FUTURE OF SOUND

Native Instruments GmbH

Schlesische Straße 29-30 | 10997 Berlin | Germany
www.native-instruments.de

Native Instruments North America, Inc.

6725 Sunset Blvd. | 5th Floor | Los Angeles, CA 90028 | USA
www.native-instruments.com